

6. 雲仙プラン100発表シンポジウム及び住民発表会

島原半島を舞台に地域の23年後の将来ビジョンやそのための行動計画についてとりまとめた「雲仙プラン100」や策定過程における取り組み等を対外的にアピールし、雲仙地域内外の交流や横の連携、多様な主体・市民参加型の国立公園づくりやまちづくり、地域振興に向けた検討の機運を高めることを目的として、「雲仙プラン100発表シンポジウム」を開催した。

シンポジウムでは、「雲仙プラン100」をはじめ、本業務の成果を、実際に国立公園づくりや地域づくりに関わる住民をはじめとした地域の人たちにわかりやすく提示し、今後の雲仙地域の目指すビジョンなどを共有し、自ら主体的にやる気を持って取り組んでいただくために雲仙プラン100の概要発表を行ったほか、各地域の取り組み発表や情報交換・交流の場として「島原半島交流ブース展示」を設けるとともに、島原半島や雲仙温泉街や雲仙天草国立公園雲仙地域に対して多方面からアドバイスや応援メッセージをいただき、最後に「雲仙プラン100宣言」を発表し、取り組みの決意を表明した。

あわせて、雲仙プラン100プロジェクトで実施した、島原半島の魅力発掘・活用提案コンテストの結果発表と表彰式、23年後、雲仙の地域づくりを担うであろう雲仙小学校の生徒による発表を行った。

来場者アンケートからは、「専門委員の話を聞いて雲仙は景観も温泉も他の温泉地に決してひけをとらないこと。雲仙の街が誇りを持って自信回復できると思った。」、「雲の上のスパリゾート。今の日本、九州にはない立ち位置を確立できれば素敵だと思います。」、「学生発表会を通じて、次世代への意識付けと育成の姿勢が素晴らしいと思います。」などの感想のほか、「新組織発足と体制への取り組み」「若い力がよく育っている」との評価が多くみられた。

また、雲仙プラン100そのものについて、「爛付けのエコ、一元化と地獄景観の改善を早期に実現してほしい。」、「白雲の池のカヌーやサイクリング、地熱を利用したアクティビティが整備されると滞在期間も増えると思う。」という意見や、「あるもの探しのような体験参加型活動に参加してみたい。」「ファサード整備やしかけづくりに興味を感じました。今後の課題として、英語・中国語・韓国語などの基本的な語学の習得も必要だと感じました。」、「島原半島の魅力を体感できるツアーがあったら是非参加したいです。」「エコタツ、はじめの雲仙さがし、変身！ワークショップ、島原半島の食材を使った料理の勉強会に参加してみたいです。」などの参加意向も聞かれた。

本シンポジウムの開催によって、「雲仙プラン100」の実現に向けたスタートを切ることができたとともに、新聞などでも報道されるなどプランや取り組みを広く周知することができ、取り組み始めた雲仙・島原半島の応援者や、一緒に取り組みを進めていく協力者などを増やすことにつながったといえる。

なお、シンポジウム開催に関連して、以下の関連イベント並びに委員会を開催した。関連イベント等の詳細については、関連の章を参照のこと。

【関連イベント】

イベント名称	開催日時等	参照
島原半島・雲仙地域一押しモデルコースモニターツアー（一押しモニターツアー）	12月10日	第Ⅲ部 5.（5）2)
第6回雲仙プラン100策定委員会	12月11日 10:30～12:00	資料2
プロジェクト成果及び取り組み事例ブース展示（島原半島交流ブース）	12月11日	第Ⅲ部 5.（5）3)
島原半島交流大懇親会	シンポジウム終了後	資料6

(1) 開催概要

日時：平成23年12月11日（日） 13:00～17:00

場所：雲仙メモリアルホール

主催：雲仙プラン100策定委員会、九州地方環境事務所

共催：長崎県、雲仙市、島原市、南島原市、島原半島ジオパーク推進連絡協議会、一般社団法人島原半島観光連盟、雲仙市観光協議会、社団法人雲仙観光協会、小浜温泉観光協会、島原温泉観光協会、南島原ひまわり観光協会

告知チラシ

雲仙プラン100プロジェクト
島原半島 つながる

2011年
12月10日①
12月11日②

★雲仙プラン100発表シンポジウム
会場：雲仙メモリアルホール 12月11日(日)13:00-17:00

① 12月10日(土) 13:00-17:00
② 12月11日(日) 13:00-17:00

③ 12月11日(日) 17:00-19:00

④ 12月11日(日) 19:00-21:00

⑤ 12月11日(日) 21:00-23:00

⑥ 12月11日(日) 23:00-25:00

⑦ 12月11日(日) 25:00-27:00

⑧ 12月11日(日) 27:00-29:00

⑨ 12月11日(日) 29:00-31:00

⑩ 12月11日(日) 31:00-33:00

⑪ 12月11日(日) 33:00-35:00

⑫ 12月11日(日) 35:00-37:00

⑬ 12月11日(日) 37:00-39:00

⑭ 12月11日(日) 39:00-41:00

⑮ 12月11日(日) 41:00-43:00

⑯ 12月11日(日) 43:00-45:00

⑰ 12月11日(日) 45:00-47:00

⑱ 12月11日(日) 47:00-49:00

⑲ 12月11日(日) 49:00-51:00

⑳ 12月11日(日) 51:00-53:00

㉑ 12月11日(日) 53:00-55:00

㉒ 12月11日(日) 55:00-57:00

㉓ 12月11日(日) 57:00-59:00

㉔ 12月11日(日) 59:00-61:00

㉕ 12月11日(日) 61:00-63:00

㉖ 12月11日(日) 63:00-65:00

㉗ 12月11日(日) 65:00-67:00

㉘ 12月11日(日) 67:00-69:00

㉙ 12月11日(日) 69:00-71:00

㉚ 12月11日(日) 71:00-73:00

㉛ 12月11日(日) 73:00-75:00

㉜ 12月11日(日) 75:00-77:00

㉝ 12月11日(日) 77:00-79:00

㉞ 12月11日(日) 79:00-81:00

㉟ 12月11日(日) 81:00-83:00

㊱ 12月11日(日) 83:00-85:00

㊲ 12月11日(日) 85:00-87:00

㊳ 12月11日(日) 87:00-89:00

㊴ 12月11日(日) 89:00-91:00

㊵ 12月11日(日) 91:00-93:00

㊶ 12月11日(日) 93:00-95:00

㊷ 12月11日(日) 95:00-97:00

㊸ 12月11日(日) 97:00-99:00

㊹ 12月11日(日) 99:00-101:00

㊺ 12月11日(日) 101:00-103:00

㊻ 12月11日(日) 103:00-105:00

㊼ 12月11日(日) 105:00-107:00

㊽ 12月11日(日) 107:00-109:00

㊾ 12月11日(日) 109:00-111:00

㊿ 12月11日(日) 111:00-113:00

00 12月11日(日) 113:00-115:00

01 12月11日(日) 115:00-117:00

02 12月11日(日) 117:00-119:00

03 12月11日(日) 119:00-121:00

04 12月11日(日) 121:00-123:00

05 12月11日(日) 123:00-125:00

06 12月11日(日) 125:00-127:00

07 12月11日(日) 127:00-129:00

08 12月11日(日) 129:00-131:00

09 12月11日(日) 131:00-133:00

10 12月11日(日) 133:00-135:00

11 12月11日(日) 135:00-137:00

12 12月11日(日) 137:00-139:00

13 12月11日(日) 139:00-141:00

14 12月11日(日) 141:00-143:00

15 12月11日(日) 143:00-145:00

16 12月11日(日) 145:00-147:00

17 12月11日(日) 147:00-149:00

18 12月11日(日) 149:00-151:00

19 12月11日(日) 151:00-153:00

20 12月11日(日) 153:00-155:00

21 12月11日(日) 155:00-157:00

22 12月11日(日) 157:00-159:00

23 12月11日(日) 159:00-161:00

24 12月11日(日) 161:00-163:00

25 12月11日(日) 163:00-165:00

26 12月11日(日) 165:00-167:00

27 12月11日(日) 167:00-169:00

28 12月11日(日) 169:00-171:00

29 12月11日(日) 171:00-173:00

30 12月11日(日) 173:00-175:00

31 12月11日(日) 175:00-177:00

32 12月11日(日) 177:00-179:00

33 12月11日(日) 179:00-181:00

34 12月11日(日) 181:00-183:00

35 12月11日(日) 183:00-185:00

36 12月11日(日) 185:00-187:00

37 12月11日(日) 187:00-189:00

38 12月11日(日) 189:00-191:00

39 12月11日(日) 191:00-193:00

40 12月11日(日) 193:00-195:00

41 12月11日(日) 195:00-197:00

42 12月11日(日) 197:00-199:00

43 12月11日(日) 199:00-201:00

44 12月11日(日) 201:00-203:00

45 12月11日(日) 203:00-205:00

46 12月11日(日) 205:00-207:00

47 12月11日(日) 207:00-209:00

48 12月11日(日) 209:00-211:00

49 12月11日(日) 211:00-213:00

50 12月11日(日) 213:00-215:00

51 12月11日(日) 215:00-217:00

52 12月11日(日) 217:00-219:00

53 12月11日(日) 219:00-221:00

54 12月11日(日) 221:00-223:00

55 12月11日(日) 223:00-225:00

56 12月11日(日) 225:00-227:00

57 12月11日(日) 227:00-229:00

58 12月11日(日) 229:00-231:00

59 12月11日(日) 231:00-233:00

60 12月11日(日) 233:00-235:00

61 12月11日(日) 235:00-237:00

62 12月11日(日) 237:00-239:00

63 12月11日(日) 239:00-241:00

64 12月11日(日) 241:00-243:00

65 12月11日(日) 243:00-245:00

66 12月11日(日) 245:00-247:00

67 12月11日(日) 247:00-249:00

68 12月11日(日) 249:00-251:00

69 12月11日(日) 251:00-253:00

70 12月11日(日) 253:00-255:00

71 12月11日(日) 255:00-257:00

72 12月11日(日) 257:00-259:00

73 12月11日(日) 259:00-261:00

74 12月11日(日) 261:00-263:00

75 12月11日(日) 263:00-265:00

76 12月11日(日) 265:00-267:00

77 12月11日(日) 267:00-269:00

78 12月11日(日) 269:00-271:00

79 12月11日(日) 271:00-273:00

80 12月11日(日) 273:00-275:00

81 12月11日(日) 275:00-277:00

82 12月11日(日) 277:00-279:00

83 12月11日(日) 279:00-281:00

84 12月11日(日) 281:00-283:00

85 12月11日(日) 283:00-285:00

86 12月11日(日) 285:00-287:00

87 12月11日(日) 287:00-289:00

88 12月11日(日) 289:00-291:00

89 12月11日(日) 291:00-293:00

90 12月11日(日) 293:00-295:00

91 12月11日(日) 295:00-297:00

92 12月11日(日) 297:00-299:00

93 12月11日(日) 299:00-301:00

94 12月11日(日) 301:00-303:00

95 12月11日(日) 303:00-305:00

96 12月11日(日) 305:00-307:00

97 12月11日(日) 307:00-309:00

98 12月11日(日) 309:00-311:00

99 12月11日(日) 311:00-313:00

00 12月11日(日) 313:00-315:00

01 12月11日(日) 315:00-317:00

02 12月11日(日) 317:00-319:00

03 12月11日(日) 319:00-321:00

04 12月11日(日) 321:00-323:00

05 12月11日(日) 323:00-325:00

06 12月11日(日) 325:00-327:00

07 12月11日(日) 327:00-329:00

08 12月11日(日) 329:00-331:00

09 12月11日(日) 331:00-333:00

10 12月11日(日) 333:00-335:00

11 12月11日(日) 335:00-337:00

12 12月11日(日) 337:00-339:00

13 12月11日(日) 339:00-341:00

14 12月11日(日) 341:00-343:00

15 12月11日(日) 343:00-345:00

16 12月11日(日) 345:00-347:00

17 12月11日(日) 347:00-349:00

18 12月11日(日) 349:00-351:00

19 12月11日(日) 351:00-353:00

20 12月11日(日) 353:00-355:00

21 12月11日(日) 355:00-357:00

22 12月11日(日) 357:00-359:00

23 12月11日(日) 359:00-361:00

24 12月11日(日) 361:00-363:00

25 12月11日(日) 363:00-365:00

26 12月11日(日) 365:00-367:00

27 12月11日(日) 367:00-369:00

28 12月11日(日) 369:00-371:00

29 12月11日(日) 371:00-373:00

30 12月11日(日) 373:00-375:00

31 12月11日(日) 375:00-377:00

32 12月11日(日) 377:00-379:00

33 12月11日(日) 379:00-381:00

34 12月11日(日) 381:00-383:00

35 12月11日(日) 383:00-385:00

36 12月11日(日) 385:00-387:00

37 12月11日(日) 387:00-389:00

38 12月11日(日) 389:00-391:00

39 12月11日(日) 391:00-393:00

40 12月11日(日) 393:00-395:00

41 12月11日(日) 395:00-397:00

42 12月11日(日) 397:00-399:00

43 12月11日(日) 399:00-401:00

44 12月11日(日) 401:00-403:00

45 12月11日(日) 403:00-405:00

46 12月11日(日) 405:00-407:00

47 12月11日(日) 407:00-409:00

48 12月11日(日) 409:00-411:00

49 12月11日(日) 411:00-413:00

50 12月11日(日) 413:00-415:00

51 12月11日(日) 415:00-417:00

52 12月11日(日) 417:00-419:00

53 12月11日(日) 419:00-421:00

54 12月11日(日) 421:00-423:00

55 12月11日(日) 423:00-425:00

56 12月11日(日) 425:00-427:00

57 12月11日(日) 427:00-429:00

58 12月11日(日) 429:00-431:00

59 12月11日(日) 431:00-433:00

60 12月11日(日) 433:00-435:00

61 12月11日(日) 435:00-437:00

62 12月11日(日) 437:00-439:00

63 12月11日(日) 439:00-441:00

64 12月11日(日) 441:00-443:00

65 12月11日(日) 443:00-445:00

66 12月11日(日) 445:00-447:00

67 12月11日(日) 447:00-449:00

68 12月11日(日) 449:00-451:00

69 12月11日(日) 451:00-453:00

70 12月11日(日) 453:00-455:00

71 12月11日(日) 455:00-457:00

72 12月11日(日) 457:00-459:00

73 12月11日(日) 459:00-461:00

74 12月11日(日) 461:00-463:00

75 12月11日(日) 463:00-465:00

76 12月11日(日) 465:00-467:00

77 12月11日(日) 467:00-469:00

78 12月11日(日) 469:00-471:00

79 12月11日(日) 471:00-473:00

80 12月11日(日) 473:00-475:00

81 12月11日(日) 475:00-477:00

82 12月11日(日) 477:00-479:00

83 12月11日(日) 479:00-481:00

84 12月11日(日) 481:00-483:00

85 12月11日(日) 483:00-485:00

86 12月11日(日) 485:00-487:00

87 12月11日(日) 487:00-489:00

88 12月11日(日) 489:00-491:00

89 12月11日(日) 491:00-493:00

90 12月11日(日) 493:00-495:00

91 12月11日(日) 495:00-497:00

92 12月11日(日) 497:00-499:00

93 12月11日(日) 499:00-501:00

94 12月11日(日) 501:00-503:00

95 12月11日(日) 503:00-505:00

96 12月11日(日) 505:00-507:00

97 12月11日(日) 507:00-509:00

98 12月11日(日) 509:00-511:00

99 12月11日(日) 511:00-513:00

00 12月11日(日) 513:00-515:00

01 12月11日(日) 515:00-517:00

02 12月11日(日) 517:00-519:00

03 12月11日(日) 519:00-521:00

04 12月11日(日) 521:00-523:00

05 12月11日(日) 523:00-525:00

06 12月11日(日) 525:00-527:00

07 12月11日(日) 527:00-529:00

08 12月11日(日) 529:00-531:00

09 12月11日(日) 531:00-533:00

10 12月11日(日) 533:00-535:00

11 12月11日(日) 535:00-537:00

12 12月11日(日) 537:00-539:00

13 12月11日(日) 539:00-541:00

14 12月11日(日) 541:00-543:00

15 12月11日(日) 543:00-545:00

16 12月11日(日) 545:00-547:00

17 12月11日(日) 547:00-549:00

18 12月11日(日) 549:00-551:00

19 12月11日(日) 551:00-553:00

20 12月11日(日) 553:00-555:00

21 12月11日(日) 555:00-557:00

22 12月11日(日) 557:00-559:00

23 12月11日(日) 559:00-561:00

24 12月11日(日) 561:00-563:00

25 12月11日(日) 563:00-565:00

26 12月11日(日) 565:00-567:00

27 12月11日(日) 567:00-569:00

28 12月11日(日) 569:00-571:00

29 12月11日(日) 571:00-573:00

30 12月11日(日) 573:00-575:00

31 12月11日(日) 575:00-577:00

32 12月11日(日) 577:00-579:00

33 12月11日(日) 579:00-581:00

34 12月11日(日) 581:00-583:00

35 12月11日(日) 583:00-585:00

36 12月11日(日) 585:00-587:00

37 12月11日(日) 587:00-589:00

38 12月11日(日) 589:00-591:00

39 12月11日(日) 591:00-593:00

40 12月11日(日) 593:00-595:00

41 12月11日(日) 595:00-597:00

42 12月11日(日) 597:00-599:00

43 12月11日(日) 599:00-601:00

44 12月11日(日) 601:00-603:00

45 12月11日(日) 603:00-605:00

46 12月11日(日) 605:00-607:00

47 12月11日(日) 607:00-609:00

48 12月11日(日) 609:00-611:00

49 12月11日(日) 611:00-613:00

50 12月11日(日) 613:00-615:00

51 12月11日(日) 615:00-617:00

52 12月11日(日) 617:00-619:00

53 12月11日(日) 619:00-621:00

54 12月11日(日) 621:00-623:00

55 12月11日(日) 623:00-625:00

56 12月11日(日) 625:00-627:00

57 12月11日(日) 627:00-629:00

58 12月11日(日) 629:00-631:00

59 12月11日(日) 631:00-633:00

60 12月11日(日) 633:00-635:00

61 12月11日(日) 635:00-637:00

62 12月11日(日) 637:00-639:00

63 12月11日(日) 639:00-641:00

64 12月11日(日) 641:00-643:00

65 12月11日(日) 643:00-645:00

66 12月11日(日) 645:00-647:00

67 12月11日(日) 647:00-649:00

68 12月11日(日) 649:00-651:00

69 12月11日(日) 651:00-653:00

70 12月11日(日) 653:00-655:00

71 12月11日(日) 655:00-657:00

72 12月11日(日) 657:00-659:00

73 12月11日(日) 659:00-661:00

74 12月11日(日) 661:00-663:00

75 12月11日(日) 663:00-665:00

76 12月11日(日) 665:00-667:00

77 12月11日(日) 667:00-669:00

78 12月11日(日) 669:00-671:00

79 12月11日(日) 671:00-673:00

80 12月11日(日) 673:00-675:00

81 12月11日(日) 675:00-677:00

82 12月11日(日) 677:00-679:00

83 12月11日(日) 679:00-681:00

84 12月11日(日) 681:00-683:00

85 12月11日(日) 683:00-685:00

86 12月11日(日) 685:00-687:00

87 12月11日(日) 687:00-689:00

88 12月11日(日) 689:00-691:00

89 12月11日(日) 691:00-693:00

90 12月11日(日) 693:00-695:00

91 12月11日(日) 695:00-697:00

92 12月11日(日) 697:00-699:00

93 12月11日(日) 699:00-701:00

94 12月11日(日) 701:00-703:00

95 12月11日(日) 703:00-705:00

96 12月11日(日) 705:00-707:00

97 12月11日(日) 707:00-709:00

98 12月11日(日) 709:00-711:00

99 12月11日(日) 711:00-713:00

00 12月11日(日) 713:00-715:00

01 12月11日(日) 715:00-717:00

02 12月11日(日) 717:00-719:00

03 12月11日(日) 719:00-721:00

04 12月11日(日) 721:00-723:00

05 12月11日(日) 723:00-725:00

06 12月11日(日) 725:00-727:00

07 12月11日(日) 727:00-729:00

08 12月11日(日) 729:00-731:00

プログラム：

第一部

- シンポジウム開会 挨拶
- 各種コンテスト表彰式
- 学生発表会
 - ・雲仙の自然を守るんジャー発表（雲仙市立雲仙小学校）
 - ・「島原半島の“お宝掘り起こし”保全・活用コンテスト」優秀作品発表
長崎県立島原高等学校
慶應義塾大学

（休憩）半島交流ブース

第二部

- 雲仙天草国立公園雲仙地域100周年に向けて
株式会社梵まちづくり研究所代表 吉田道郎様
株式会社 JTB コミュニケーションズ九州代表取締役社長 小俣郁雄様
- 「雲仙プラン100」発表（雲仙プラン100地域づくり委員会）
（休憩）半島交流ブース
- 雲仙プラン100に寄せて
雲仙市長 奥村慎太郎様
島原市長 横田修一郎様（メッセージ）
南島原市長 藤原米幸様（メッセージ）
長崎県島原振興局長 江口道信様（代読：同管理部長 西貴史様）
財団法人阿蘇地域振興デザインセンター事務局長 坂元英俊様
有限会社大渡企画・設計代表取締役 大渡剛弘様
元環境省長官官房審議官、元財団法人国立公園協会理事長 瀬田信哉様
- 雲仙プラン100宣言
- シンポジウム閉会 挨拶

（2）開催結果

1）参加者

約 150 名（策定委員会メンバー、事務局スタッフ等を含む）



応援メッセージ等掲載の様子



ブース出展準備の様子

2) 当日配布資料

プログラム

つながる島原半島
雲仙プラン100発表シンポジウム

- 日時：平成23年12月11日（日） 13:00～16:35
- 場所：雲仙メモリアルホール
- 主催：雲仙プラン100策定委員会、九州地方環境事務所
- 共催：雲仙市、島原市、南島原市、島原半島ジオパーク推進連絡協議会、一般社団法人島原半島観光連盟、雲仙市観光協議会、社団法人雲仙観光協会、小浜温泉観光協会、島原温泉観光協会、南島原みまわり観光協会

プログラム

シンポジウム第一部

- 13:00～13:10 シンポジウム開会 挨拶
- 13:10～13:20 各種コンテスト表彰式
- 13:20～14:00 学生発表会
- 雲仙の自然を守るんジャー発表
雲仙市立雲仙小学校
- 「島原半島の“お宝掘り起こし”保全・活用コンテスト」優秀作品発表
長崎県立島原高等学校
慶應義塾大学

(休業) 半島交流ブース

シンポジウム第二部

- 14:10～14:30 雲仙天草国立公園雲仙地域100周年に向けて
株式会社茂まちづくり研究所代表 吉田 運助様
- 14:30～15:00 「雲仙プラン100」発表
株式会社JTBコミュニケーションズ九州代表取締役社長 小原 郁雄様
- 雲仙プラン100地域づくり委員会

(休業) 半島交流ブース

15:30～16:25 雲仙プラン100に雷せて

- 雲仙市長 奥村 慎太郎様
- 島原市長 横田 修一郎様 (メッセージ)
- 南島原市長 藤原 米幸様 (メッセージ)
- 長崎県島原振興局長 江口 道信様 (代読：向管理部長 西 貴史様)
- 財団法人阿蘇地域振興デザインセンター事務局長 坂元 英俊様
- 有限会社本澤企画・設計代表取締役 大澤 勇弘様
- 有馬県省長官事務課長、元財団法人国立公園協会理事長 瀬田 信哉様

16:25～16:30 雲仙プラン100宣言

16:30～16:35 シンポジウム閉会 挨拶

- ※12:00～17:00 同会場で島原半島交流ブース開催。
- ※18:00～ ホテル東津浦にて島原半島大懇親会を開催。



雲仙プラン100宣言

外国人の一大避暑地や国内有数の温泉地としての賑わいは影をひそめ、雲仙地域は今、観光客の減少、地域経済の疲弊、景観の悪化、人口の減少といった多くの問題を前に、転換期を迎えています。今こそ、力強く新たなスタートをきるため、ここに、国立公園指定100周年に向け、地域再生と国立公園再生のための具体的なビジョンと行動計画を「雲仙プラン100」としてとりまとめました。

地域の一人一人が自らのこととして考え、知恵を出し合い、汗を流し行動するという強い気持ちをお忘れず、オール雲仙で取り組めます。そして、島原半島の地域、産業、立場を越えて相互理解を進め、感謝と笑顔を忘れず、互いに隣だたせる関係を築き、一体となって地域を元気にしていきたいと思えます。

私たちは、自然と人、人と人、地域と地域の豊かな関係を築き、美しく元気な郷土を未来の子どもたちへ伝えたい。そして、国内外から訪れ、訪れた人も、住む人も、働く人も、みんなが満足度100%で元気になる地域を目指します。

島原半島が、交流、体験、学習のメッカとなり、半島の魅力をめぐる長期滞在が楽しみ、多くの交流人口を迎え、半島の地場産業が活性化し、暮らしの魅力に溢れた美しく豊かで元気の郷土となるため、積極的にその役割を果たします。

国立公園として、島原半島全体の地域振興に活用され、また、島原半島全体で保全再生に取り組む国立公園となり、地域から求められ支えられ誇りとなりうる「協働型国立公園」を目指します。

国立公園ならではのアクティビティが充実し、島原半島の魅力を広く紹介し、周遊、滞在へと誘い、人と地域に楽しく、まちと人が輝く「忘れられない」、長期滞在型、国際観光地「雲の上のトレッキングスリゾート」を目指します。

今日は、未来に向かって走り出すスタート地点です。目指すゴールまでには、多くの皆様のご理解とご協力が不可欠であり、ともに考え、支えあう仲間が必要です。たくさんの方々と、情報と意見を共有し、アイデアと意見を交換し、学び、励まし合いながら、今日より明日、明日より明後日と小さな足取りかもしれませんが、決してあきらめず、楽しみながら続けていきたいと思えます。

つながる雲仙温泉！ つながる島原半島！ つなげよう 未来へ！

平成23年12月11日
～みんなで作る みんなで行動し みんなで支え合おう～
雲仙プラン100地域づくり委員会

雲仙プラン100発表用資料

島つながる
原半島

雲仙プラン100 発表用資料

島つながる
原半島

平成23年12月11日 雲仙プラン100地域づくり委員会

表紙

●地域の概要

島原半島は面積約460㎢、橋本と有明海間に突き出た半島で、約15万人の人々が居住しています。山から海までの垂直分布の中に変化に富んだ景観をはじめ、気質の異なる温泉や湧水、人々の豊かな営みや歴史・文化など、多様で独自性の高い地域資源を有しています。

●地域の現状と課題

雲仙地域は、明治初期から戦前にかけて外国人の一大避暑地として賑わい、1934年（昭和9年）3月16日に日本で最初の国立公園として指定され、高度経済成長期には国内でも有数の温泉地として団体客を中心に賑わいをみせていました。

しかし、1990年の普賢岳噴火に加え、その後の団体旅行の減少や、個人旅行のニーズへの対応の遅れなどから、さらなる観光客の減少、温泉街の賑わいの消失、地域経済の疲弊、景観の悪化、人口の減少といった多くの問題を抱え続け、また、島原半島全体でも今後は地場産業である一次産業の後継者不足、地域経済の停滞が予想されています。

こうした危機感の中、多くの計画・提案がなされてきましたが、多くは実現されずに、同様の提案が繰り返されるばかりで、未だ多くの地域資源が活用されないまま放置されているのが実情です。

しかし、日本初の世界ジオパーク認定をはじめ、広域圏を聖域圏づくりを目指した取り組みがはじまるなど、島原半島をとりまく新たな動きも活発化しつつあります。

1

P 1

●経済動向や市場ニーズの予測

経済は低成長期が続く一方、社会の成熟化が進み、国民は、心の豊かさや生きがい重視し、価値観も今以上に多様化すると予想されます。

- 一人一人の価値に基づく観光の時代が到来し、「ほんもの」や「ふれあい」がより一層求められるようになると予想されます。
- 災害や環境問題への関心の高まりにより、社会全体が「安全・安心」を求める意識が高まっていくと考えられます。
- 東アジアとの連携が加速し、交流の増加が見込まれます。
- 外国人（特にアジア）についても、日本の四季や伝統文化に関心が高まり、成熟した旅行者が増えることが見込まれます。

●雲仙プラン100とは

このように、多くの課題を前に、一刻の猶予もない地域状況と、世界経済や国民の価値観、観光客のニーズの大きな変化を前に、地域戦略の見直しが必要と迫られています。

こうした現状と危機感を共有し、その上で、力強く新たなスタートをきるため、ここに、国立公園指定100周年に向け、地域再生と国立公園再生のための将来ビジョンとそのための具体的な行動計画を示した中長期の地域再生行動計画「雲仙プラン100」を策定しました。

本プランの策定にあたっては、専門家・行政機関・地域関係者からなる「雲仙プラン100策定委員会」を設置するとともに、雲仙地域をはじめ島原半島からも多くの方々にご参加いただき、ワーキンググループを組織し、それぞれの分野について活発に議論を行いました。

その中で、経済動向や市場ニーズはもちろんです。今までの課題にも目を向け、島原半島の一体性、地域資源を活用したソフトの充実、地域住民の主体化、豊かな自然や歴史・文化等の掘り起こし、その保全・活用、地域と国立公園の連携や利用拠点周上のネットワーク化、観光の魅力の多様化、歩いて楽しい雲仙温泉街づくり、雲仙温泉街での滞在時間の延長等に留意し、地域全体で一人一人が自ら考え知恵を出し合い行動する意識を醸成し、具体的な行動を推進できるような実施主体と達成目標を明らかにした行動計画を作成し、それを推進するための体制づくりを行いました。

2

P 2

●地域の強みと課題

本プランの検討に当たり、島原半島及び雲仙地域の強みと課題を整理しました。

	強み	課題
島原半島	<ul style="list-style-type: none"> 山から海までの垂直分布の中に、多様な地域資源がコンパクトにまとまって「縦横の強み」 九州の中でも、特に自然と人の暮らしが寄り添い、魅力（農林漁業、地場産品等）に溢れる地域であり、今後の利用者ニーズへの活用可能性が高い 景観の念をもってお山（普賢さん）に向きあい、その恩に感謝する心が受け継がれてきた地域 自然や火山との共生を体感する体験型観光、自然エネルギーの活用等の独自の強みを持つ地域 「国立公園第一号」である雲仙を有する 「世界ジオパーク」認定により「火山由来の地形・地質」や「人と火山の共生スタイル」が世界的価値となった 九州の真ん中であり、周辺に、長崎、佐賀、熊本、大分、阿蘇など、タイプの異なる観光地を有し、広域観光圏を形成しやすい地域 南阿蘇村、ジオパーク、観光圏、半島観光圏の取り込みにより地域を包括する広域観光圏が生まれ、連携が促進されはじめている 	<ul style="list-style-type: none"> 若者の流出、高齢者の不足 地域の人の暮らしの豊かさに対する認識が不足し、地域資源を活かされていない 避暑地として指定が広く利用されてきた特性や、「日本最初の国立公園」に指定された際の結束力が活かされていない 地域の誇りである国立公園ならではの自然とふれあえる機会を落としている 島原半島の人々の間での交流、相互理解が滞滞であり、島原半島としての一歩居の欠如 観光と地場産業の連携不足 島原半島外の観光地（長崎、熊本、阿蘇、湯布院、別府、平戸、佐賀、天草等）との交流、連携不足
雲仙地域	<ul style="list-style-type: none"> 日本八景、日本初国立公園、日本のリゾート地としての歴史 日本初国立公園であり、国立公園を誇りに思い、活用していきたい意識が強い 関係行政機関等の協働のもと自然や景観が保全され、また、活用のための整備が進み、豊かな自然とふれあえる機能が充実している 普賢岳を中心とした火山・自然資源（山、地質、温泉）を気軽に楽しめる 四季がはっきりし、九州の中でも美しい山型景観（雲い、霧、雨、雪、霧、雲の姿） 雲の上の温泉街、静寂な温泉街でリゾートイメージ 伝統と行き違いサービスによる、変化した遊覧客のニーズへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊客、滞在時間の減少 観光地としての気軽さ、親しみやすさの不足や市場ニーズへの対応の遅れ 商店・食・文化の魅力不足等、温泉街の歩みを進めたい必要の不足 継続的発展促進、観光プランニングの不足 気候、行動力、見え方不足 住民を含めた地域全体で考え、地域主体で対策を実施する意識や体制ができていない 地域一人一人が自らのこととして考え、知恵を出し合い、力を貸し行動する強い気持ちの欠如 雲仙の自然や島の暮らしの魅力を多様な地域資源を活かしていない 半島地域との連携、一体感不足 全国の観光地や温泉地に取次、国立公園としての知名度や存在感の低下 国立公園ならではの自然やつながりを活かして切り捨てられず、地域の雇用や産業との結びつきが薄れ、また、そのことが、国立公園そのものの価値や魅力、訴求力の低下に結果を及ぼしている

●島原半島と雲仙地域の相互関係の展望について

島原半島の地域、産業、立地を超えて、相互理解を進め、島原半島と国立公園である雲仙地域が相互の特長や強みを活かすことで、互いに際立たせる関係を築き、協力して地域内外に情報を発信するとともに、半島周辺地域との連携を図り、それぞれの役割を積極的果たしながら、一体となって地域を元気にしていくことが重要であると考えました。

3

P 3

戦略3 人と地球にやさしい、安全・安心な国立公園・観光地の実現

3-1 環境・景観に配慮した取り組み・循環型まちづくりの促進	<ul style="list-style-type: none"> 景観の向上と環境景観の改善 自動車交通のエコ安全性 自然エネルギー活用（CO2排出抑制）による循環型まちづくり 自然エネルギー活用（CO2排出抑制）による循環型まちづくり 自然エネルギー活用（CO2排出抑制）による循環型まちづくり 自然エネルギー活用（CO2排出抑制）による循環型まちづくり
3-2 安全・安心な食、商品、サービスの提供及びまち歩きのための整備	<ul style="list-style-type: none"> 食料・農産物の産地・産地直売場の設置 食料・農産物の産地・産地直売場の設置 食料・農産物の産地・産地直売場の設置 食料・農産物の産地・産地直売場の設置 食料・農産物の産地・産地直売場の設置

○備付けのエコ化と地景景観の改善
○自然エネルギー活用（CO2排出抑制）による循環型まちづくり

○おもてなしの心による安全安心の国立公園・観光地づくり
○ユニバーサルなおもてなしの促進
○ユニバーサルなデザインの導入

○自動車交通のエコ・安全化
○雲仙温泉街の景観のあり方の検討、設定
○緊急時の迂回道路の確保

8

P 8

戦略4 地域の恵みを活かしたゆっくり癒され楽しめる滞り型国立公園・観光地の実現

4-1 自然を楽しむ新たな仕組み・仕掛けづくり	<ul style="list-style-type: none"> 自然を楽しむ新たな仕組み・仕掛けづくり 自然を楽しむ新たな仕組み・仕掛けづくり 自然を楽しむ新たな仕組み・仕掛けづくり 自然を楽しむ新たな仕組み・仕掛けづくり 自然を楽しむ新たな仕組み・仕掛けづくり
4-2 雲仙地域内の利用拠点の機能強化と連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙地域内の利用拠点の機能強化と連携強化 雲仙地域内の利用拠点の機能強化と連携強化 雲仙地域内の利用拠点の機能強化と連携強化 雲仙地域内の利用拠点の機能強化と連携強化 雲仙地域内の利用拠点の機能強化と連携強化

○地景の魅力向上

○山の魅力の向上
○山の魅力を活かしたアクティビティの充実

○利用拠点の機能強化と連携強化

○白雲の池の魅力向上

9

P 9

4-3 歩きたくなる街づくり	<ul style="list-style-type: none"> 歩きたくなる街づくり 歩きたくなる街づくり 歩きたくなる街づくり 歩きたくなる街づくり 歩きたくなる街づくり
4-4 長期滞在に対応できる滞在環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 長期滞在に対応できる滞在環境づくり 長期滞在に対応できる滞在環境づくり 長期滞在に対応できる滞在環境づくり 長期滞在に対応できる滞在環境づくり 長期滞在に対応できる滞在環境づくり

○歩きたくなる街づくり
○歩いて楽しい街づくり
○「ほんもの」の魅力ある温泉街づくり

○ツアーデスクの設置、一元的情報発信

10

P 10

戦略5 持続可能な推進体制の構築

5-1 推進組織づくり・継続・発展	<ul style="list-style-type: none"> 推進組織の構築・運営 地域内の情報共有（収集、発信） 知恵とアイデアの共有 連携強化の推進 5年ごとの雲仙ブランド100の行動計画の見直し 高専教育施設との連携
5-2 雲仙人の育成（人材育成）	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙人の育成（人材育成） 雲仙人の育成（人材育成） 雲仙人の育成（人材育成） 雲仙人の育成（人材育成） 雲仙人の育成（人材育成）
5-3 雲仙地域のマーケティングとブランディング強化と戦略的情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 雲仙地域のマーケティングとブランディング強化と戦略的情報発信 雲仙地域のマーケティングとブランディング強化と戦略的情報発信 雲仙地域のマーケティングとブランディング強化と戦略的情報発信 雲仙地域のマーケティングとブランディング強化と戦略的情報発信 雲仙地域のマーケティングとブランディング強化と戦略的情報発信

○地域内の情報共有、知恵とアイデアの共有
○達成状況や成果評価のためのアンケート調査の実施
○5年ごとの雲仙ブランド100の行動計画の見直し
○マーケティング、ブランディング、戦略的情報発信

○おもてなしの向上
○雲仙に誇りを持ち、伝えられる観光地づくり
○研修・勉強会

11

P 11

ブランディングのイメージ

雲仙温泉及び周辺の一帯の資源整理一覧→ブランディングのイメージが見えてくる

資源の分類	資源の概要	価値	期待	役割	その他
自然資源	山、水、温泉、森林、田舎、自然環境	自然環境の美しさ、健康効果、癒し効果	観光資源としての価値	観光客の誘致、地域活性化	観光客の誘致、地域活性化
文化資源	歴史、伝統、祭り、食文化	地域文化の継承、観光資源としての価値	観光資源としての価値	観光客の誘致、地域活性化	観光客の誘致、地域活性化
産業資源	農業、林業、観光業	地域産業の振興、観光資源としての価値	観光資源としての価値	観光客の誘致、地域活性化	観光客の誘致、地域活性化
施設資源	温泉施設、観光施設、宿泊施設	観光客の滞在体験向上、観光資源としての価値	観光資源としての価値	観光客の誘致、地域活性化	観光客の誘致、地域活性化
人材資源	地元住民、観光業者、ボランティア	地域活性化の推進、観光資源としての価値	観光資源としての価値	観光客の誘致、地域活性化	観光客の誘致、地域活性化

「雲仙の目指すところ」

12

●推進体制

雲仙プラン100の各行動計画の推進について、地域が主導し、地域全体がかかわり、一人一人が自ら考え知恵を出し合い役割を果たしながら行動できる体制とするため、各行動計画を進めるための中間支援組織として、「雲仙プラン100地域づくり委員会」を立ち上げ、その中に4つの部会を設置します。

本委員会は、自らも行動計画を推進しながら、同時に、雲仙プラン100を指針として、多くの関係組織、事業者の皆様が自ら動いていただくことを念頭に、その実施者をはじめ、関係する雲仙地域や島原半島の様々な行政や団体、事業者や個人等と連携・協働することで中間支援機能を果たし、雲仙プラン100の実現に向けた取り組みを推進します。

戦略1～5の幅広く多岐にわたる行動計画について、確実に推進していくため、まず着手する行動計画を絞り込み、重点的に取り組みを進めることで、雲仙プラン100の実現性を高めます。

まず、着手する行動計画の 카테고리 10

- ① 島原半島あるもの探しの実施（相互理解の促進）
- ② 島原半島フェノロジーカレンダーの作成・活用（半島への誇りと地域地産を目指して）
- ③ アクセス道路の景観改善（具体的な行動が見えるところから）
- ④ 畑付けのエコ・一元化と地味景観の改善
- ⑤ 田舎パーク＆ライドの実現に向けた取り組み（実証実験から本格実施に向けて）
- ⑥ 牧羊による放牧・草原景観の維持
- ⑦ 山のアクティビティーの充実
- ⑧ 雲仙全体（旅館、商店、飲食店等）の連携によるまち歩き促進
- ⑨ SNS（Face book等）や広報誌「雲仙100」を活用した情報共有と情報発信の強化
- ⑩ 雲仙や島原半島を知り伝えられる雲仙人の育成

13

雲仙小学校「子ども観光ガイド」紹介文

雲仙小学校「子ども観光ガイド」紹介文

雲仙小学校の5～6年生は、毎年「子ども観光ガイド」という取り組みを行っています。

これは、自分たちが住む雲仙の自然や観光地などについて調べ、観光客の役に割ってもらおうという活動です。

今年も、調べたことについて調べた「オオムシゴキ」
 野鳥について調べた「オオルリブルー」
 山について調べた「赤で野イエロー」
 温泉について調べた「湯タムリホワイト」
 山について調べた「雲霧部グリーン」

以上の5つの紙に分かれて発表しました。

今年のジャオバツレ大会のイベントでも発表を行っています。本日の発表は、11月に行った子ども観光ガイドの一部となります。

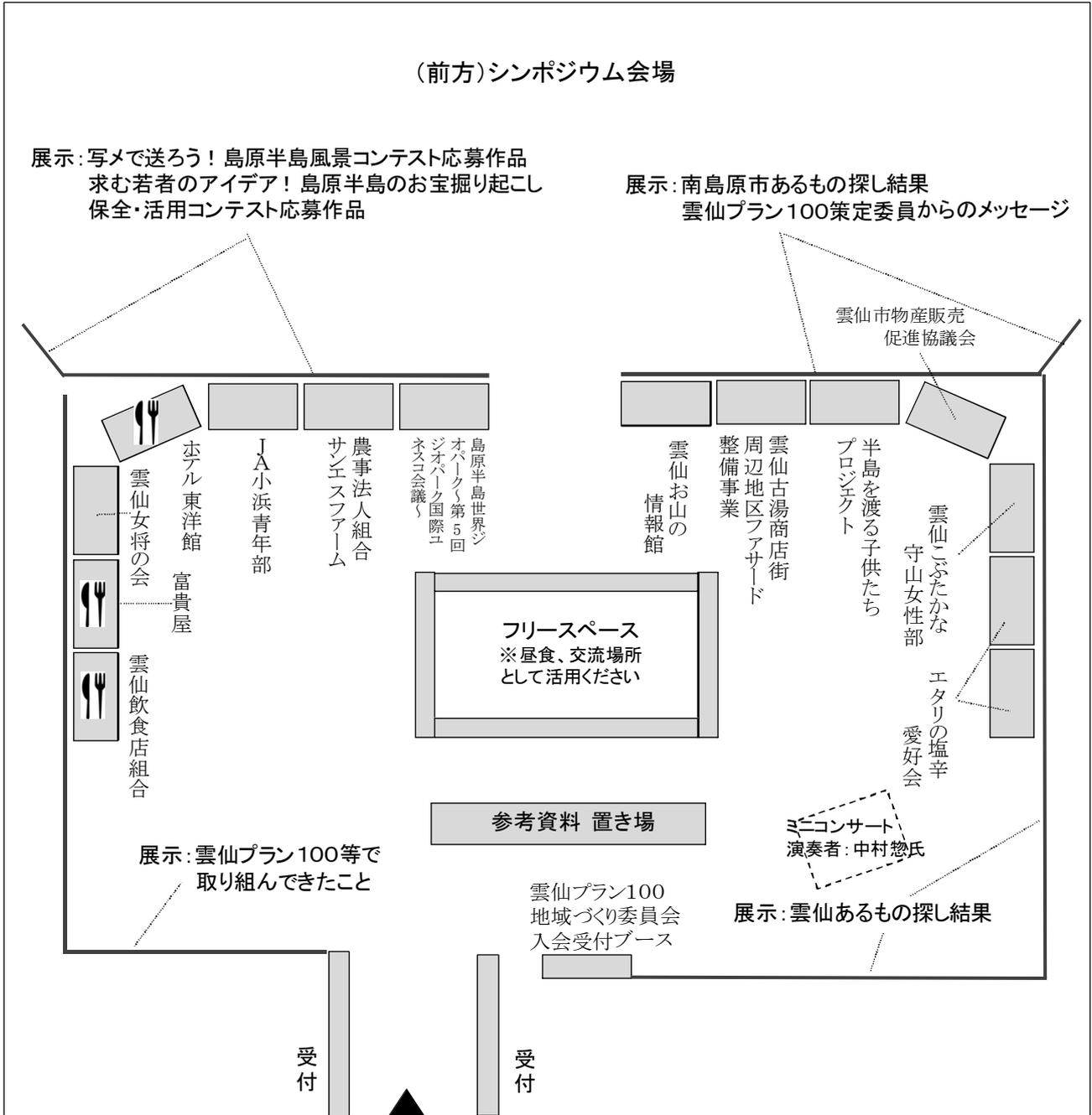
それでは、雲仙小学校5～6年生の皆さん、「子ども観光ガイド」よろしくお願ひします。

発表者	学年	調べたこと
「オオムシゴキ」	5年	下田真希、榎田真優
「オオルリブルー」	5年	船田正人
「赤で野イエロー」	5年	辻野悠聖、村、日向
「湯タムリホワイト」	5年	八木拓海、藤田神智
「雲霧部グリーン」	5年	高橋直也

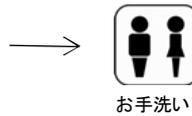
島原半島交流ブース

島原半島交流ブース案内図

12/11(日) 12:00~17:00



会場入り口



3) 議事録

ワーキングメンバーの荒木美智子氏、松尾亜紀氏の進行により、シンポジウムのプログラムが進められた。シンポジウムの結果をプログラムに沿って以下にまとめる。

◆第一部 開会、あいさつ

◇主催者挨拶

開会にあたり、主催者、また地元雲仙を代表して以下2名より挨拶が行われた。

【環境省九州地方環境事務所 統括自然保護企画官 後藤乙夫氏】

今朝、山に霧氷がついている様子が見えた。温泉、観光など魅力的な雲仙の国立公園をもっと多くの人に知ってもらいたい、そのために本日発表する「雲仙プラン100」を検討してきた。プラン100は、皆で考え皆で行動し、皆で支え合うというコンセプトだが、これまで考えてきたことを、今後、皆で行動し、皆で支え合って進めていくものである。

本日のシンポジウムでは、プラン100スタートのきっかけとして、コンテストの表彰や関係者からの応援メッセージをいただくことを予定しているため、最後まで、よろしくお願ひしたい。



【社団法人雲仙観光協会 会長 石田直生氏】



日頃より地域の若いワーキンググループメンバーが、雲仙温泉のあり方について色々と悩み、その回答がやっと見つかったといえる。あらゆる内容を盛り込んだ、大変素晴らしいものが出来たと思っている。いよいよ、それをいかに実行に移していくかという段階に入った。あわせて、「雲仙プラン100地域づくり委員会」という大変素晴らしい組織ができた事に大いに期待する所である。

あわせて、雲仙プラン100のいろいろな事業に対して、島原半島観光連盟などと連携できる部分は連携し、雲仙プラン100による雲仙地域、島原半島の活性化を目指していただきたい。

これからは国立公園100周年に向けて、雲仙温泉の魅力を活かした地域づくりが必要であり、雲仙プラン100地域づくり委員会が雲仙の地域の皆さんと一緒に、大いに活躍されることを、観光協会としても応援していきたいと思っている。なお本日ご出席の皆さまにもぜひ実行委員としてご参加いただき、雲仙地域、島原半島の活性化にご尽力いただけることを願っている。

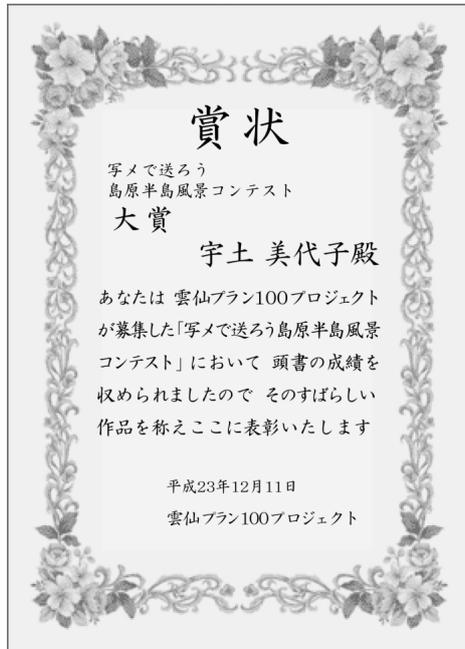
今後も皆様のご支援ご理解のもと、皆様の期待をいただきながら、委員会のメンバーには大いに頑張っていたいただきたい。

◇写メコンテスト、学生版コンテスト表彰式

雲仙プラン100プロジェクトで実施したコンテストの受賞者に表彰状と、受賞作品として雲仙・島原半島の特産品が授与された。

受賞者は当日配布のプログラムに掲載のとおり。

コンテストの表彰状



コンテストの賞品

	内容	備考
雲仙市	雲仙旅の麦酒カレーセット	5千円相当
	an フィ・チュールセット	3千円相当
	雲仙茶セット	〃
	雲仙ハイカラセット	〃
島原市	まが玉干支徳利	5千円相当
	島原市特産品創出事業で“こらうまかたい賞”を受賞した商品の詰め合わせ（珈琲、豚角煮カレー、黒ごまひじき麺）	3千円相当
南島原市	七福セット（養々麺、黒ごま麺のセット）	5千円相当
	手延べ麺セット	3千円相当
	大地の恵みセット（合鴨米と合鴨焼酎等の詰め合わせ）	〃
島原半島ジオパーク国際ユネスコ大会事務局	島原半島ジオパークの「立体模型地図」、ジューンマスコット、ウィンドブレイカーなどのセット	5千円相当
	グッとくるもの（湯せんぺい食べ比べセット）	

◇雲仙の自然を守るんジャーの発表

23年後、雲仙の地域づくりを担うであろう雲仙の若者を代表して、「雲仙の自然を守るんジャー」に扮した雲仙小学校の生徒たちにより、雲仙の植物、野鳥、山など季節に応じた自然環境資源の見どころ、食や雲仙温泉の特徴や温泉入浴のポイント、地獄の説明など、クイズやお芝居などを織り交ぜた発表が行われた。



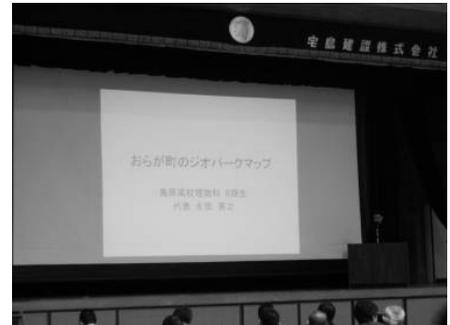
◇「島原半島の“お宝掘り起こし” 保全・活用コンテスト」発表

コンテストで優秀賞を受賞した、長崎県立島原高等学校理数科の生徒による「おらが町のジオパーク」、慶応義塾大学の生徒による「TEEN project」、さらに同じく慶応義塾大学の生徒によるコンテスト応募作品「うみのみち」の発表が行われた。

《半島の魅力体感コースマップ部門 優秀賞》

「おらが町のジオパーク」 長崎県立島原高等学校理数科

- ・地元の高校生が、地元のことを調べて、見どころをまとめた作品。観光客などが公共交通を使って移動する際の手段や最寄り駅やバス停なども調べて、提案を行った。



～発表資料～

おらが町のジオパークマップ

島原高校理数科 8期生
代表:永田 英之

P 1

◎はじめに

私たち島原高校理数科8期生は、昨年度「おらが町のジオパークを探せ」と題して、生徒一人一人が、自分の家の周りなどの身近にあるジオサイトを調査しました。これまであまり注目されてこなかった、いわゆる「掘り出し物」のジオサイトばかりです。今回、その一部を、1日で回れるコースとして九つにまとめて紹介します。

P 2

コース図

P 3

①尾茂浜－阿蘇火山の軽石－

場所:雲仙市国見町土鼻尾茂海岸
交通手段:(鉄道)多良良町駅から徒歩20分
(バス)尾茂浜バス停下車

トイレ:尾茂浜バス停横の公衆トイレ
駐車場:尾茂浜バス停に五台ほど停められる
地質時代:9万年前の阿蘇火砕流

〈見所〉
・9万年前の阿蘇火砕流からなる大小さまざまな軽石が海岸一面に多く見られる。
・海岸の砂浜では砂鉄や軽石などをたくさん拾うことができる。

〈地学的な説明〉
・9万年前の阿蘇火砕流の軽石が見られる。
・砂浜の砂鉄は火山岩に含まれる磁鉄鉱という鉱物が風化し、川の水で運ばれ一か所に集まっている。
・この砂鉄を使用して、かつては製鉄が行われていた

〈写真説明〉
・比較的大きな石が多く、全体的に黒っぽい海岸。
・9万年前の阿蘇火砕流の軽石が見られる。

P 4

②大野原遺跡

場所: 島原市有明町大三東成1382
 交通手段: (鉄道)大三東成駅から徒歩11分
 (バス)有明町前バス停から徒歩5分

トイレ: グリーンウェブの中
 駐車場: グリーンウェブの駐車場
 地質時代: 前期雲仙火山 15万年前～現在

〈見所〉
 ・島原市を代表する縄文時代後期～晩期の遺跡。
 ・土器製作にかかわると考えられる遺構や大量の土器が発見されている。

〈地学的な説明〉
 ・中期雲仙火山(30万年前～15万年前)の上に前期雲仙火山の火山灰がのっている。
 ・粘土は約7万年前の風化土。
 ・この地層から採取された粘土は小学校の粘土細工の教材にも使用されていた。



〈写真説明〉
 ・粘土地層の地質標本。

P 5

③百花台断層

場所: 雲仙市国見町
 交通手段: (鉄道)鳥鉄湯江駅から鳥鉄バスに乗り換え
 (バス)高産試験場前バス停から徒歩30分

トイレ: 百花台公園内の公衆トイレ
 駐車場: 百花台公園駐車場
 地質時代: 中期雲仙火山 30万年前～15万年前

〈見所〉
 ・緩やかな斜面が断層のところで平らになっている。

〈地学的な説明〉
 ・中期雲仙火山の緩やかな火山麓扇状地が山側に向かって沈んでいる。
 ・200～300メートル程度の短い断層である。
 ・百花台公園第二駐車場の近くで見られる。

〈写真説明〉
 ・左の写真ではピンク色の木の下の右のところが沈んでいる。
 ・右の写真では点線を境にして平坦な道から坂になっている。



P 6

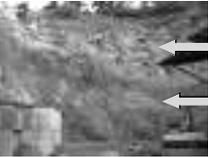
④出の川の採石場—火山角礫岩—

場所: 島原市出の川町
 交通手段: (鉄道)三余駅から徒歩30分
 (バス)三余駅前から徒歩30分

トイレ: あり
 駐車場: あり
 地質時代: 中期雲仙火山 30万年前～15万年前

〈見所〉
 ・中期雲仙火山の火山角礫岩と溶岩流の関係が見られる。

〈地学的な説明〉
 ・中期雲仙火山の火山角礫岩と溶岩流の境目を見ることができる。
 ・中期雲仙火山の、爆発的噴火から溶岩流に至る様子がわかる。



溶岩流
 中期雲仙火山の火山角礫岩

〈写真説明〉
 ・下部は中期雲仙火山の火山角礫岩、上部は溶岩流。

P 7

⑤眉山崩壊の流れ山

場所: 島原市津町付近
 交通手段: (鉄道)南島原駅から徒歩2分30秒
 (バス)広馬場交差点バス停より徒歩5分

トイレ: 近くに漁協あり
 駐車場: なし
 地質時代: 前期雲仙火山麓扇状地

〈見所〉
 ・200年前の島原大変の凄さを目の当たりにできる。

〈地学的な説明〉
 ・200年前の眉山の山体崩壊(島原大変)のときの眉山の山体崩壊の土砂が流れてきて、島を作っている。

〈写真説明〉
 ・木々が生えている。



P 8

⑥眉山の山体崩壊の供養塔

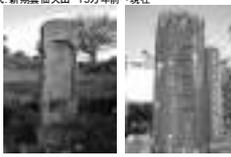
場所: 島原市安徳町
 交通手段: (鉄道)なし
 (バス)北安徳バス停より徒歩3分

トイレ: なし
 駐車場: 整備されていないが供養塔のそばに少し広めの場所がある
 地質時代: 前期雲仙火山 15万年前～現在

〈見所〉
 ・島原藩によって建てられたものと農民たちによって建てられたものの2つの供養塔が存在している。

〈地学的な説明〉
 ・眉山の山体崩壊(島原大変)とそれに伴う大津波による犠牲者を弔うために建てられたもので、三倉や田町、布津、南有馬など各地に慰霊塔が存在する。

〈写真説明〉
 ・左の写真が、農民たちによって建てられた供養塔で、「南無阿弥陀仏」と刻まれている。
 ・右の写真が、島原藩によって建てられた供養塔で、左の写真的供養塔より大きく、小高いところにある。
 ・右の写真的供養塔は良質な安山岩できている。
 ・各地にある供養塔には、右の写真的供養塔と同形のものが多く存在する。



P 9

⑦深江のすくい漁法

場所: 南島原市深江町丁付近
 交通手段: (鉄道)なし
 (バス)深江市場下で降りる

トイレ: なし
 駐車場: なし
 地質時代: 前期雲仙火山 15万年前～現在

〈見所〉
 ・潮の干満の差が大きい海ならではのすくい漁法が見れる。

〈地学的な説明〉
 ・すくい漁法とは、潮の干満の差が大きい海に半月状に石を組み、潮が引くときに逃げ遅れた魚をとる漁法。
 ・ここで使用されている石は、30～50センチメートルくらいの雲仙火山のデイサイト。
 ・昭和20年ごろまで使われていた。

〈写真説明〉
 ・左の写真は全体を写したものである。
 ・右の写真は石組みの一部を写したものである。



P 10

⑧戸ノ隅の滝

場所: 南島原市西有家町長野高貝野
 交通手段: (鉄道)なし
 (バス)長野バス停から徒歩30分

トイレ: あり
 駐車場: あり
 地質時代: 古期雲仙火山 50万年前～30万年前

〈見所〉
 ・落差15～20メートル、幅約5メートルあり、水量、渓谷ともに島原半島一を誇るといわれている。
 ・水中にはサワガニなども見られる。
 ・滝までは長い階段が続く。

〈地学的な説明〉
 ・約50万年前の塔の坂岩岩という硬い岩石が侵食に強いため滝を作っている。
 ・滝つぼ一帯には、ひんやりとした空気が漂い、他との温度の差が大きい。

〈写真説明〉
 ・雲仙の地獄から流れてくる酸性の水の影響で岩石が赤く染まっている。



P 11

⑨島原半島の誕生の火山跡

場所: 南島原市南有馬町向小屋
 交通手段: (鉄道)なし
 (バス)向小屋バス停で降りる

トイレ: なし
 駐車場: 防波堤の前に停められる
 地質時代: 初期雲仙火山 380年前

〈見所〉
 ・島原半島が誕生した頃の火山の跡を見ることができる。

〈地学的な説明〉
 ・380万年前に噴火した初期雲仙火山。
 ・写真の岩は、火山灰できている。
 ・この火山は島原半島が誕生した頃の火山で、熊本県の大矢野島に見られる火山と同じ頃のものである。

〈写真説明〉
 ・左の写真は海岸沿いのげけの写真である。
 ・右の写真の矢印のあたりに噴火口の跡がある。
 ・右の写真では、溶岩などが表面の割れ目に沿って流れ出し、噴火が進んでいったと思われる。



P 12

《元気なふるさと保全・活用部門 優秀賞》

「TEEN project」 慶応義塾大学

- ・今後の島原を担う地元の若い力に焦点をあてて、提案を行った。



～発表資料～

TEEN PROJECT

慶応義塾大学3年 福島由夏
山脇一恵

平成23年度 12月 慶応義塾大学
島原市地域力向上支援プロジェクト

P 1

問題点・現状

問題点:
 ・島原半島の行政、市民間の意思疎通、連携が不十分+市民側に地域資源に誇りを持って外に発信しようという姿勢がなく、観光に活かされていない。
 ・各組織(町内会、観光協会、商工会議所、...)各々の進むベクトルが異なっているため一体感が無くなってしまっている。
 →ジオパークという島原半島全体に関わる共有認識も各団体ごとにバラバラで不十分。

行政、市民の中間の立場に立てる若者主体の中間支援団体の構築が必要。

平成23年度 12月 慶応義塾大学
島原市地域力向上支援プロジェクト

P 2

なぜ高校生なのか

「よそ者 若者 バカ者」:
 まちづくり・地域活性化という概念に若者の力は必要不可欠。大学が存在しない島原半島にとって、勢いのある若者とはまさに高校生のこと。
 高校生の力の魅力:
 高校は半島内各地域に存在し、活動している例も多くある→各々の活動であり、島原半島全体の地域力向上にはあまりうまく活かされていない。

高校生がやりたいことを高校生の力でやり抜くことに大きな意味がある。

平成23年度 12月 慶応義塾大学
島原市地域力向上支援プロジェクト

P 3

青森高校生団体:クリエイトの事例から学ぶ
TEENPROJECTの有り方とは

高校生主体の新幹線開業前夜祭

→久保田圭祐君(18歳・現在慶応義塾大学1年生)が当時中心となり東北新幹線全線開業を盛り上げようと青森市内の高校生達約70人が「高校生がつくる開業前夜祭」を行う。企画、運営、協賛企業を集めるに至るまで、全て高校生が手掛ける。

【団体の有り方】
 高校生が主体的に動き、楽しみながら行うことが何より重要
 →きっかけは中学生の時の友達と趣味で始めたミニFM。楽しみながら活動することが結果的に地域活性化へ繋がる

平成23年度 12月 慶応義塾大学
島原市地域力向上支援プロジェクト

P 4

青森高校生団体:クリエイトの事例から学ぶ
TEENPROJECTの有り方とは②

【広報の仕方】
 投げ込み/高校生ネットワークを使ったロコミ
 省庁などの記者クラブにあるポストを利用し行うイベントについての告知を投げ込みする

【行政のサポートの有り方】
 予算/空間/インフラの提供
 民間のTOYOTA財団50万の助成金を手にすることでラジオ機材を購入。地域の方の協力によって格安自前の貸し部屋を持つことができた。いつでも集うことができる空間で定期的に集まることが可能に。
 団体マネジメントの示唆
 大人が前に出てトップダウンに組織を運営するのではなく、NPOの元締めの方などから団内をマネジメントする際のアドバイスももらっていた。

平成23年度 12月 慶応義塾大学
島原市地域力向上支援プロジェクト

P 5

市民主体で島原半島を活性化!

やりたいことを実現 + 地域イベントでの地域貢献

外部PR
 地域理解
 サポート

高校生 協働実現 大人

平成23年度 12月 慶応義塾大学
島原市地域力向上支援プロジェクト

P 6

具体的に

行政 → 半島内高校生が頻りに集まれるような空間の提供 (家、外泊付近など)

高校生 → 伝統行事、イベントへの労働力の提供、出店の手伝い、芸術作品(展示物)の提供

ジオ祭
 高校生によるジオパークのPRイベント
 ●ジオクイズ大会●
 →島原半島地域資源に関するクイズを行い正解者には8級グルメの景品などをプレゼント
 ●ミス・ミスターTEEN島原決定戦●
 →各高校の可愛い子を集め、「自分の高校自慢」を行い交流 ジオパークのPR(出演権)IC(主催)などを獲得、フリクラの無料券
 ●のど自慢●
 →優勝グループにはカラオケ店割引券プレゼント、ジオパークチームマングのTシャツ提供など。

主体性を持つ

平成23年度 12月 慶応義塾大学
島原市地域力向上支援プロジェクト

P 7

提案:TEEN PROJECT

外部
 注目
 発信

若者が継続的にやりたいことを実現している場

JCI 総合運営

市民 協働実現 行政 予算策定

平成23年度 12月 慶応義塾大学
島原市地域力向上支援プロジェクト

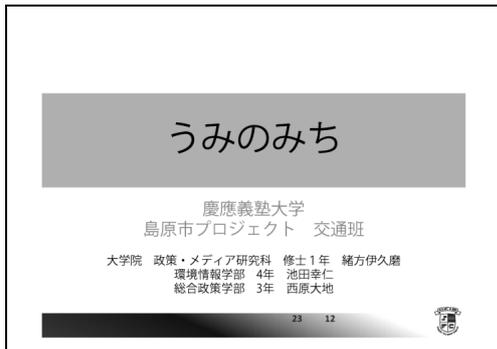
P 8

《元気なふるさと保全・活用部門 応募作品》

「うみのみち」 慶応義塾大学

・海に囲まれた半島をうみのみちで魅力アップするための提案を行った。

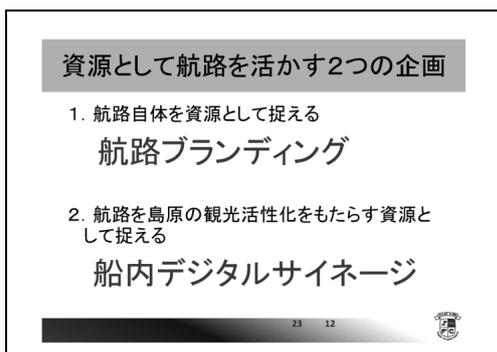
～発表資料～



P 1



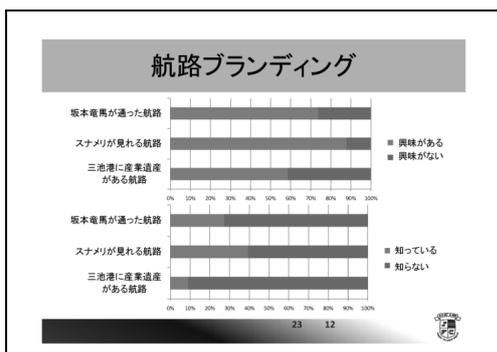
P 2



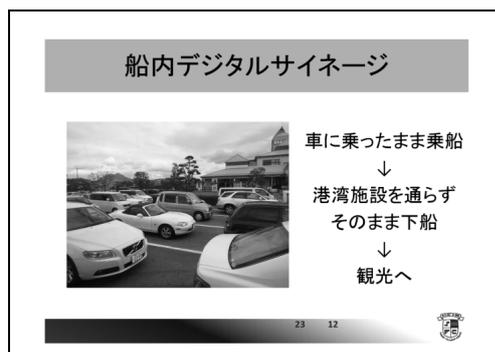
P 3



P 4



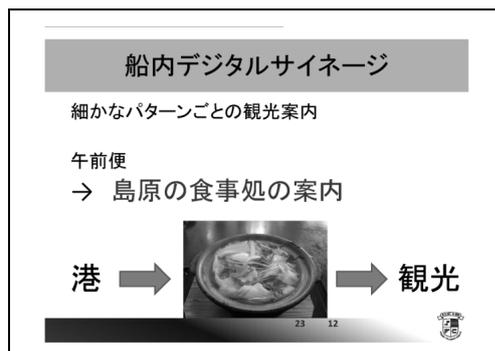
P 5



P 6



P 7



P 8

◆第二部

◇雲仙天草国立公園雲仙地域100周年に向けて

今回の雲仙プラン100の策定に専門家の立場として参画いただいた吉田委員、小俣委員より、メッセージをいただいた。

【株式会社梵まちづくり研究所 代表 吉田道郎氏】

専門分野として、仕事で温泉地の仕事に係る事が多いため、日本国内の温泉地での事例を少し紹介し、雲仙プラン100のアクション開始に向けて、新たに立ち上がった地域づくりの委員会メンバーにも参考にいただければと思う。

表題の「トレッキングスパリゾート」に関連して、余談となるが、ベルギーに「スパ」という温泉が湧いている街があり、先週10日ぐらい前にその街に行った。街の一番中心には源泉が湧く建物があり、街中には立派な昔の浴場施設をはじめ、使われなくなった古い施設や新しい施設もあり歩いてまわれるようなつくりになっていることから、トレッキングスパリゾートというのは、この街になるかもしれないと思った。こういう街がある事を知っておいてもらえたらいいかなと思う。



そういった取り組みをして、道草のご案内とか街並みガイドなども行っている。

つぎに、日本海側の城崎温泉についてだが、カニの美味しい地域で、お客はほぼ横ばい。この地域のリーダーが言っていたが、これからの城崎温泉を持続的に発展させていくためには、地元の若い子が新しい商売をチャレンジ出来る場所を用意しなければならない、ということ。神社の前の広場の奥の方にチャレンジショップがあり、地元の若い子が入り新しい商売にチャレンジし、成功すれば街の中に店を出せるというインキュベーションシステムがある。こうゆうものを、これからも地域の力を育てていく仕組みとして続けていくということである。ここも、合併する前に町づくりの計画書をつくったが、これを基に今後のことを話し合ってきた。

つぎに、群馬県の水上市温泉だが、この地域は昭和6年の上越線開通とともに観光化されてきた。まちづくりの先進的なことを商店街で始めようとした時に、街の方で県が指揮をとり、運営体制も含めまちづくり拠点となる場所から作りあげた。水上市温泉の水上市の駅前で、JR東日本がSLに力を入れているが、駅前がこれでもかとゆうぐらい看板があつたりで、これを治していこうという活動を始め、地元の若い人が集まって調査をした。



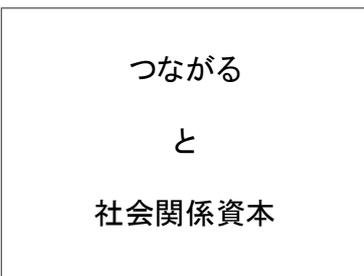
また、古い民家があるのだが、あまり活用されていなかったため、中を掃除し、現在は会議の場所に使っているということで、新しい拠点づくりができた。



つぎに、優秀な温泉地といわれる草津温泉だが、地元の人は危機感を持っていて、町の力を高めていく取組をしているようである。これは草津の日帰り入浴施設で、日本に沢山できた日帰り温泉地のはしりだと思うのだが、これも中を改装して活用できるようにしている。ここでは、こういうハード整備だけでなく、30人ぐらい集まり検討会を始め、街並みを少しなおしていくということを今やっている

最中で、再来年ぐらいには外観も変わってくると思われる。

つぎに熱海だが、ここでは代替わりが進んでいて、市長や民間側の観光協会長も比較的若い方になり、東京で働いていたが熱海の街づくりがやりたいと言い帰ってきた青年は、観光協会とともに街歩きツアーなどの活動を行っている。「熱海温泉玉手箱 (<http://wla.jp/ontama/>参照)」では、さまざまな体験プログラムやまちあるきツアーを用意してお客さんに楽しんでもらうという取組をしている。九州の別府と同じ仕組みだが、地域の頑張る人を応援するという取組で、「たった一人から社会が変わる」というキャッチフレーズのもと、毎回色々な頑張る人を捜しながら、それをツアーに仕立て上げていくという仕組みにしている。



最後に今回、「つながる」というのがキャッチフレーズの一つにあり、これを難しい言葉で言うと「社会関係資本」と言うのだが、社会資本整備というと、これまでは道路などハードのイメージだが、最近では社会資本を整備するという場合は、新しい社会資本で社会関係資本などと呼ばれており、ハードよりも町の中の仕組みだったり、体制だったり、場となったり、そういったものを整備していかないと地域はよくなるという考え方。今回立ち

上がる雲仙の地域づくり委員会は、雲仙において新しい社会関係資本ができたということになる。これから雲仙プラン100を実行していくにあたり、整備にともないそれを使っていく運営体制や人間関係、組織などもきちんと整備をしていかないといけないことを覚えておいてほしい。

【株式会社 JTB コミュニケーションズ九州代表取締役社長 小俣郁雄氏】

皆さんにとっては、国立公園指定 100 周年を迎える 23 年後はどうなっているだろうか？想像してほしい。雲仙小学校の、守るんじゃーの子ども達が 33 歳になっているのだろうか、雲仙はどうなっているだろうか、それぞれ皆さんがどうなっているか？想像していただけたらと思う。

この 100 周年にあたっての雲仙プラン 100 について、私の



100年の夢という事で考えた事について話したいと思う。

時は2034年の12月11日。広いお湯と硫黄の匂いに、心地よいお湯につかって体と心をほぐしていく。温泉は格別だなと思いながら入る。雲仙を包む大自然と極上の泉質。昔のままのそれが快適という嬉しい気持ちを感じながら、昨日の夜羽田を発ったのが21時過ぎ、長崎空港が24時間になって着いたのが23時前。深夜の便に合わせて24時間空港で長崎空港からリムジンが出ていて雲仙へ小一時間で着く。東京をでてから3時間で雲仙に着く。「いいなあ」と思いながら、いつもの旅館に着くと、コンシェルジュが待っていてくれて「おかえりなさい」と言う。そういうシチュエーションを思っている。温泉療養ドクター、温泉ドクターに事前に自分の状況を送っておいて、温泉ドクターが翌朝から自分を診てくれる。美味しい朝食は明日まで待とうと。先生にあつたら「最近どうですか？」と言われ、「いや、徹夜が続いています。昨日ホテルに着いたのは11過ぎ、寝たのは1時近く、お風呂には入りましたが」と。「そうですか、ではチェックしましょう」と言われ、「運動していますね。でもハードなんですね。」この結果は5日後にお見せしましょう」という感じである。23年後、日本国民は6日間のチェックが保険ででき、自己負担が20~30%、そのようなシチュエーションを想像してみた。

雲仙に6日間滞在する。そこに20年前前に出来たレンジャー、トレッキングのボランティアの人達もしくは有料の人達が待っていて、翌日診療が終わってから6日間はトレッキングを楽しむ。トレッキングコーチも40、50人と出来ている。今や2034年、雲仙を訪れるトレッキングのお客様は50万人を超えている。凄いなあ。ここの空気、ここの水、ここの緑、山、雲仙に帰ってきてまた力が出てきた、といった感じで。6日間身体を休める。このように23年後はなっているのではないかと思っている。トレッキングガイドの女性が30何歳、先程の雲仙小学校の子供たちかもしれない。その人達が、「私達は、何十年か前の普賢岳の事が分からないけども」という説明をしてくれる。

今回の雲仙プラン100が、子供達の世代、これまでが第2世代、第3世代、第4世代として、彼達は第5世代かわからないが、永遠に続いていくと思う。100のプランができた、まさにこれは私達が行動していくしかない。期限を切つてという話だと思うし、今日から行動していくしかないと思っている。

今、新幹線の影響で鹿児島が160%、熊本が140%、なんと湯布院までが162%と、9~11月と非常に増えている。西へ西へと言うことと、新幹線の効果があると思うが、私は雲仙の力、島原半島の力は、皆さんが思っている以上に凄いものがあると思っており、先程草津の話も出たが、絶対に負けていない。それに、この自然の空気と緑と水、これは絶対に負けないもので、大変な可能性があるということを、改めて、この雲仙プラン100が出来た今、考えて頂き、行動の時であると。

新たな組織も、宮崎会長以下決まり、あとは行動しかない。これに係わった私も、これからは呼ばれなくても来る、呼ばれたら喜んで来るということで、81歳までお手伝いをしていきたい。第2世代、第3世代の方たちは、95歳とか100歳とかになっているのではないかとと思うが、一緒にまだまだ頑張りたいと思う。そして若い人達、さきほどの慶応義塾大学の発表にもあつたが、高校生とのプロジェクト、若い人たちとやっていけたらと思う。100年の夢、是非私の夢と一緒に読んで、一緒にやっていけたら。まさに、行動の時である。

◇「雲仙プラン100発表」

雲仙プラン100の各行動計画の推進について、地域が主導し、地域全体がかかわり、一人一人が自ら考え知恵を出し合い役割を果たしながら行動できる体制とするため、各行動計画を進めるための中間支援組織として、「雲仙プラン100地域づくり委員会」が、本シンポジウムを契機に立ち上がった。

そのメンバーによる雲仙プラン100の概要発表が行われた。



[発表]

はじめに 雲仙の歴史、現状、策定の経緯 雲仙プラン100の概要、今後への思い

発表者：雲仙プラン100地域づくり委員会

会長 宮崎高一

戦略1 島原半島が一体となった取り組みの強化

発表者：雲仙プラン100地域づくり委員会

半島連携部会 部会長 荒木美智子

戦略2 雲仙地域の自然資源の保全・再生・継承

戦略3 人と地球にやさしい、安全・安心な国立公園・観光地の実現

発表者：雲仙プラン100地域づくり委員会

景観整備・エコ部会 部会長 加藤宗俊

副部会長 松野純也、石田直正

戦略4 地域の恵みを活かしたゆっくり癒やされ楽しめる滞在型国立公園・観光地の実現

発表者：雲仙プラン100地域づくり委員会

自然活用・まち歩き部会 部会長 七條彰宣

副部会長 森佑一郎、加藤隆太

戦略5 持続可能な推進体制の構築

発表者：雲仙プラン100地域づくり委員会

総務部会 部会長 石田真隆

副部会長 市来勇人

まとめ 発表概要の整理と協力をお願い

発表者：雲仙プラン100地域づくり委員会

副会長 福田努、林田政晋



〔発表内容〕

●はじめに（会長 宮崎高一）

『雲仙プラン100』は今年で国立公園制定77周年を迎えた雲仙が、23年後の100周年のあるべき姿に向けて取り組んでいく地域づくりのことである。

いま、雲仙は大きな転換期にある。平成元年には約100万人に達しようとした宿泊客数も、去年は半分以下の40万人にとどまった。また、地域の人口減少・過疎化も年々進んでいる。

住む地域としての雲仙、観光地としての雲仙の賑わい、華やかさはどこへ行ってしまったのだろうか？

今の世界情勢・日本情勢では、昔のような好景気も期待できないのは明らかだ。

では、このまま衰退の一途をたどっていくのだろうか？

それとも、また賑わいを取り戻せるのだろうか？

取り戻せるとしたら、誰かがやってくれるのだろうか？

それとも雲仙のひとりひとりが関心を持ち取り組んでいくべきなのだろうか？

そんな大きな危機感を胸に、一年半前から、雲仙の若手で、中長期的な雲仙のあるべき姿を考える『雲仙プラン100ワーキンググループ』をスタートさせた。

環境省の事業をきっかけとして、地元も熱意を持って積極的に、勉強会を開催し、他の観光地へ視察に出向き、地域住民・島原半島住民の皆様へアンケートを実施し、雲仙を内外から包括的に見て、毎週議論を戦わせてきた。また、島原半島の行政・地域団体からなる『島原半島ワーキンググループ』も議論に加わり、その結果を専門家・行政・地域関係者からなる策定委員会にて検討、一年半かけ『雲仙プラン100』を作り上げてきた。

そして本日、『雲仙プラン100』の実行委員会として『雲仙プラン100地域づくり委員会』を立ち上げ、スタートさせる。

『基本理念』は【つながる】。

『自然と人、人と人、地域と地域が豊かなつながりを築き、美しく元気な郷土を未来の子供たちへつなげる』

『国内外から人がおとずれ・つながり、訪れた人も、住む人も、働く人も、皆が満足度100%で笑顔でつながる地域を目指す』

内容は、後ほど各部会長のほうから説明してもらう。

『雲仙プラン100地域づくり委員会』は組織としてまだ構築中である。走りながら詳細を決めていき、来年1月中には部員まで決定し、組織を仕上げていきたい。

『雲仙プラン100』の内容は中長期的なものが多く、膨大で多方面に渡っている。それゆえに、雲仙プラン100を指針として、是非、多くの関係組織、事業者の皆様にも自ら動いていただくことが大切であると考えている。我々、委員会は、自らも行動を起こすが、自ら動こうとしてくださる組織や事業者の皆様を支援し、一緒になって考え、実行する中間支援組織としての機能を果たせればと考えている。そこで、組織としてまず目指すことは。

- ・ 『永続可能な組織づくり』これから23年後をめざし、『続けられる』組織。
- ・ 『雲仙全体で取り組む組織づくり』雲仙のあらゆる団体から部員を募る。細かな情報発信をし、雲仙の住民ひとりひとりが関心を持ち、地域づくりに参加できるようにする。

- ・ 『会員を募る』 会員・賛助会員をひろく募り、その会費を活動資金とする。
- ・ 『島原半島全体との連携』
- ・ 『行政、外部諸団体との連携』

『雲仙プラン100』は、我々委員会だけでできるものではない。雲仙のすべての団体、住民や、半島の多くの方々ともかかわりながら、皆様ひとりひとりが関心をもち、参加してもらうこと。雲仙に対する愛情や思い。島原半島に果たせる役割。

また、環境省をはじめ、長崎県・雲仙市ならびに、半島連携については、島原市、南島原市、島原半島観光連盟等、行政、諸団体の皆様からの協力をいただきながら、『国立公園100周年に向けての永続的な地域づくり』の実現に向けて続けていこうと考えている。

●戦略1（半島連携部会 部会長 荒木美智子）

半島連携部会は、島原半島関係組織と協力、協働しながら、雲仙地域として、率先してできることを実践し、実現に向けて取り組むこととする。

半島連携部会では、5つの行動計画を進めていく。

1. 雲仙地域と島原半島の人々の相互理解を促進する。このことにより、今後の雲仙地域と島原半島との一体的取り組みを強化したいと考えている。
2. 産業間の連携、地域間の連携、地産地消、地域の自然や地場産業を活かしたエコツーリズムやグリーンツーリズムの推進等を通して、地場産業を活性化したいと考えている。
3. ジオパークを始めとした半島ならではの自然豊かな魅力がある。こうした魅力に支えられ、半島の暮らしの体験プログラムを半島全体で創り出すこと等を通じて、半島を楽しむしかけづくりを行いたいと考えている。

この2つ目の産業間の連携、3つ目のしかけづくりは、ともに、島原半島に多くの交流人口を迎え、地域経済の活性化を得て、暮らしの魅力をより輝かせることができると考えている。そのため雲仙温泉としては、国内外から訪れる人々にそうした魅力を紹介し、周遊滞在の旅へと誘う観光拠点としての役割を担えるよう、ツアーデスクの設置や一元的情報発信や半島周遊コースづくり等を、半島の関係者の皆様とともに行っていければと考えている。

4. 半島の地域資源を守り育て、これらを地域振興に活かし、その活力によって今より質を高めて未来の子どもたちへ伝える。このことにより、住む人の誇りとなって、訪れる人を魅了し続けることができると考えている。
5. 雲仙地域は島原半島の一員として、ともにマーケティングやその結果を踏まえたブランディング、戦略的情報発信を行うことができれば、半島の魅力をより効果的に伝え、観光客誘致活動や製品の販売などにおいて、半島地域が一体となったマーケティング戦略、ブランディング戦略の元、それぞれの地域で機能分担し、連携をしていくことが可能になると考えている。

こうした多くの行動計画の中で、部会のまず行うこととして、半島地域各地の人たちと交流をしながら、各地の取り組みや自然、文化、歴史、食材、産品、サービス等の地域資源を把握し、特性を理解し合うための「あるもの探し」や「子どもたちのためのあるもの探し」を実施したいと考えている。5年以内に、半島各地の人が、相互理解が進んだと実感できることを目指す。

また、半島の自然、特性をまとめた半島フェノロジーカレンダーの作成を1年以内の目標とする。なぜなら、これらのお互いを知り合い、理解し合うことが、様々なことを行う基礎となり、これからの半島の連携の中で一番大切であり、やり続けていかなければならないことだと考えているからである。

以上のようなことを通し、島原半島が一体となって交流や相互理解を促進するとともに、相互の特性を活かし、自然や地場産業を活用した交流体験プログラムを実施し、島原半島全体の交流人口を増やすために、雲仙の特徴を活かし、積極的に役割を果たしていきたいと考えている。

●戦略2、3（景観整備・エコ部会 部会長 加藤宗俊）

私は景観整備・エコ部会が、雲仙が国立公園としてまた世界ジオパークとして今後存続していくため、一番大切なそして基本的な活動を、皆様のご協力のもとに実行していく部会であると考えて、部長をお引き受けした。松野・石田両副部長と協力しながら、私達の担当する戦略実現のため、2年間一生懸命がんばるので、皆様のご支援を何卒よろしくお願いしたい。

さて、松野純也副部長の担当する、雲仙地域の自然資源の保全・再生・継承は、今後、雲仙が国立公園として存続するための死命線となる大切な事業となる。言い換えれば、既存の美しい雲仙の自然を磨き上げ、雲仙に訪れる方々に、雲仙本来の魅力に感動していただくための活動となる。

また、石田直正副部長の担当する地球にやさしい国立公園・観光地の実現は、自然と共存していくための新しいルール作りや、新しい提案の実行状況を見て頂くことで、雲仙地域の魅力を引き出し、来訪されたお客様に感動して頂くための活動である。

具体的な内容については、両副部長に説明をしてもらおうが、その前に、お願いしておきたい事がある。

私達の部会の活動は、長期・永続的に活動を続けていく必要が有ること、及び環境整備や街づくり等に関係しておられる、行政や諸団体の皆様と共に、いかにすればテーマを実現することができるのかを協議し、協力を図っていくことが、特徴となっている。

従って、関係者の皆様に、度々ご挨拶に上がりお時間を拝借し、協議させて頂くことになると思われるので、皆様に話し合いの機会を頂き、ご理解・ご協力を賜るようお願いする。

●戦略2（景観整備・エコ部会 副部会長 松野純也）

私が担当する「戦略2」においては、「雲仙の地域の自然資源の保全・再生・継承」について、活動を行っていく。

大まかな内容としては、雲仙の自然資源について、行政だけでなく、地域住民の参加・協力、またエコツーリズムやグリーンツーリズムを通じて訪れた人の参加・協力も得て、地域全体で保全再生活動を行うことで、今より質を高めて、未来の子供たちへ伝えていく。

このことにより、国立公園をはじめとした雲仙地域ならではの自然や景観、そこから生まれる歴史や文化を、将来にわたってより輝かせ、住む人の誇りとなって、魅了し続けることができると考えている。また、これらを通じて、あらたな国立公園のあり方である協働型国立公園を実現したいと考えている。

取組む項目として、「アクセス道路の改善」、「国立公園の保全・活用」、「ミヤマキリシマの保全再生」、「山岳保全管理の促進」、「原生沼の再生」、「温泉の保全、持続活用」、「雲仙遺産計画」の7つの項目を掲げている。まずは、1番目にある「アクセス道路の景観改善」に努めて参ります。行動内容としましては、雲仙へのアクセスや半島内の移動中も車窓から手軽に景観の魅力を楽しんでもらうため、関係機関や地権者との調整をしつつ、雲仙の美しい眺望(ちょうぼう)や景観改善のための場所に合わせた景観保全・改善方法を選定し、いわゆる通景伐採、緑のトンネルの保全等、対策を実施していく。

●戦略3（景観整備・エコ部会 副部長 石田直正）

環境・景観に配慮した取り組み・循環型まちづくりの促進について説明する。

①爛付けのエコ化と地獄景観の改善

*地獄の美観整備を行うこととして

- ・爛付けの一本化や、爛付け湯や源泉・配管の素材の見直しや、配管の路線統一、隠す工夫や見せる工夫、古い配管の撤去などを行っていききたいと思う。

*爛付けを一元化し、熱効率の向上と集中管理を行うこととして

- ・爛付けを実施している事業者の方々による方向性の話し合いを行い、爛付けの一本化に向けた熱量の調査、一元化エリアの検討、配管計画を考えていききたいと思う。

②自動車交通のエコ・安全化として

*関係機関との調整をしつつ、今年の夏休みの最後の土日に行った仁田峠のパーク&ライドについて、実証実験を重ねながら、実施方法の改良を行い、本格実施に向けて検討を進めていききたいと思う。

③牧羊による放牧・草原景観の維持として

*ゴルフ場等において、牧羊による放牧・草原の景観を保ちながら、将来的に、毛や食肉、加工品の販売などにより収入を得て、放牧が維持できるよう循環型システムを作っていきたいと思う。

*また、牧羊によるミヤマキリシマ群落の保全・再生にもつなげ、将来にわたり、すばらしい雲仙の景観を守っていきたいと思う。

●戦略4（自然活用 まち歩き部会 部長 七條彰宣）

当部会は雲仙の自然の活用と温泉街の街歩きの促進という2つの柱を持った部会である。

一つ目

自然については、国立公園の指定の理由となった海と山を同時に望む雄大な景色、ツツジや紅葉、霧氷といった四季の風物詩、迫力ある噴煙を上げる地獄など雲仙ならではの自然をどのように活用し今後、将来の地域の発展につなげるかということがテーマである。

方向性としてはこれら雄大な景色や風物詩、地獄を「見る眺める」というだけでなく、「体験する、体感する場所へ」と発展させたいと考えている。

例えば地獄においては地熱と石を活かした「熱体験足つぼ歩道」や「野菜の蒸し場」、「天然岩盤浴や歩行浴」、「硫黄のニオイや成分を活かした実験場」など地獄めぐりの途中に五感に訴える体験スポットをつくり、歩いて楽しい場所へと進化を目指す。また絹笠山や平成新山を望む新ルートなどを活用したトレッキングやウォーキング、さらには街中とあわせたジョギングやサイクリング、また、白雲の池は、カヌーやカヤック、子供向けのフィールドアスレチックなど、キャンプ場だけでなく、これら様々なアクティビティの拠点となり、平成新山から手軽な絹笠山までそれぞれの山に合った活用をして、雲仙が将来九州における山岳アクティビティのメッカとなることを目標とする。

二つ目

街歩きについては、現在、商店街でファサード整備が行われ、それに伴い各商店での魅力アップの動きが始まっている。飲食店も夏に豆腐やソーメン、秋冬は豚肉料理やジオむすびなど新商品の開発が行われている。旅館も独自のあるいは旅行業者とタイアップした宿泊プランの企画や季節ごとのピーアールに取り組むなどそれぞれの団体で活動が行われている。団体それぞれの魅力アップの取り組みと各団体の連携、協調がテーマと考えている。

訪れたお客様が街歩きをしてもらうためには、雲仙及び島原半島の特産を活かした商品・飲食メニューの開発やこの地域らしい個性的な店づくり、街が一体となった街歩きの仕掛けづくり、更に温泉街の美しい風景づくりやスポット整備など歩きたくなるあらゆるきっかけをつくることと考えている。各商店や飲食店の魅力アップの取り組み、旅館ホテルは各社 hp などでの事前の PR、旅行業者への発信と旅館ホテル組合として魅力アップ企画や商品造成、更には日々のお客様への確実な案内を更に強化することだと思ふ。また時には商店・飲食店・旅館が連携した共同企画やイベントを開催するなど、これらは今までの反省も踏まえ、今後街全体としてそれぞれの役割を果たし、アピールすることが重要と考え、それに取り組んでいくこととする。

これら自然活用と街歩きの両面での取り組みが充実することによって、滞在時間の延長や連泊に繋がり、旅行者への紹介は観光協会やお山の情報館、街の駅、旅館ホテルがツアーデスクの役割を果たせるようにして行こうと考えている。

つづいて、各担当の副部長より、自然活用と街歩きについて、これから始める具体的な事を発表する。

●自然活用（自然活用 まち歩き部会 副部会長 森佑一郎）

自然の活用としてまず自然を楽しめる環境を作っていきたいと考えている。

雲仙には国立公園ならではの沢山の山や池や滝など自然に囲まれた土地である。

キャンプやトレッキング、カヌーやサイクリングなどの遊びを通じて雲仙って楽しいと思っほしいと考えている。1日では遊び尽くせないと思っもらうほどのメニューを作っていきたい。まず地獄においては熱、音、香り、など五感で楽しめるスポットを紹介した地獄散策マップの制作や野菜蒸しの日常化に取り組む。山のアクティビティについては絹笠山の夕日を眺めるサンセット

ガイドツアーやトレッキングなど、できることからプログラムやメニューづくりを始める。今年の夏には白雲の池で島原半島と天草の子ども達 15 名とキャンプを行った。竹いかだを作り、池に浮かべて実際に遊んだ。夜は星座観察や周辺の生き物を観察するなど丸 1 日自然を満喫した。これからの雲仙は自然体験が楽しめる場所として有名にしていきたい。このようなアクティビティープログラムやメニューをアウトドア関連の雑誌や会員組織へ情報発信をはじめ、他業界、団体とのコラボ企画やイベントなどで認知度を少しずつ上げると共に、それらを宿泊商品の開発につなげたり、商店と BBQ セットをつくったりして、新しい客層を獲得していきたいと考えている。

●まち歩き（自然活用 まち歩き部会 副部会長 加藤隆太）

街歩き部会では、「歩きたくなる魅力ある温泉街づくり」を目指し 3 つの取り組みを柱に進めて行く。

- 第一に、雲仙らしい魅力溢れるお店づくりを目指す
- 第二に、歩いて楽しい仕掛けづくりを行う
- 第三に、ゆったり過ごせる街並みの整備を行う

第一：“雲仙らしい魅力溢れるお店づくり”のために、

『歩いて楽しい魅力ある温泉街づくり』には、“個々のお店の魅力アップ”が最大のカギになると考える。雲仙・島原半島らしい魅力溢れるお店づくりを推奨し、個々のお店に反映していくことで、雲仙温泉でしか感じられない雲仙らしさを演出する。具体的には、個々のお店の個性に合わせて、雲仙・島原半島の特産を使用した商品作りや新メニューの開発、雲仙の四季や自然、歴史をモチーフにしたお店づくりなどを行い、お店の魅力アップを進めて行く。現在、飲食店組合で行っている、創作料理新メニューを続けて行き、その中から雲仙温泉と言えばコレ！といえる共通食材やメニューを見出し、雲仙のイメージづくりに取り組む。

また、空き店舗対策として、新しい店舗の誘致活動も進めて行く。その際、雲仙らしい個性を持つお店を選定し、温泉街の魅力アップにつながるようなお店の誘致を行う。また、雲仙の魅力をお客様に伝えるためにも、雲仙の文化・芸術を表現する場も作っていききたいと考えている。

第二：“歩いて楽しい仕掛けづくり”のために、

街歩きの仕組みとして、例えば「湯めぐり」のような取組を行う。ただし、ホテル旅館だけで“湯めぐり”を行うのではなく、商店や飲食店・地獄周辺でも「温泉・湯」にまつわる取組を行い『湯の街めぐり』といえるような街歩きの仕組みを考え、各団体や個店に働きかけ連携した取組を実施する。

また、現行のイベント「雲仙紅葉ウォーク」や「灯りの花ぼうろ」、「クレ郡祭」や「創作料理メニューマップ」など、観光協会・ホテル旅館組合・商店街・飲食店組合などそれぞれの団体が雲仙・島原半島の魅力をお客様に伝える取組を行っている。それぞれでこういったイベントを打つだけでなく、雲仙全体が連動して一つのイベントを支え盛り上げていく流れを作る。

こういった取組を街全体で行っていくために、現行のイベントを整理し、半年前から準備を行い、三か月前には広報が打てるような流れを作っていく。

第三：“ゆったり過ごせる街並み整備”のために、

ケヤキ広場周辺は雲仙温泉街の玄関口であり、お客様がくつろげる空間として演出をしたい。そこから、満明寺・児童公園へと足を運び、雲仙全体を見渡せる場所にして、そこから雲仙の街にさらに足を運んでもらう仕組みを作る。また、街中に木陰を作りベンチを置いたり、水のせせらぎを作る、また、各お店にお客様が気軽に立ち寄り一休みできるような取組を行い、ゆっくりくつろげる空間を街中に増やしていく。

また、半島との連携を深め、半島の様々な魅力を紹介するツアーデスク等も設置し、訪れるお客様に、島原半島の魅力を広く伝え、楽しんでいただきたいと考えている。

こういった取組を行うことで、お客様が温泉街を楽しむ時間が次第に長くなり、また来たい温泉街、ひいては泊まりたい温泉街「歩きたくなる魅力ある温泉街づくり」を目指す。

●戦略5（総務部会 部会長 石田真隆）

われわれ総務部会は、雲仙プラン100の組織を円滑に運営するお手伝いをさせていたく。大きく分けて、持続可能な推進体制の構築、人材育成、情報戦略の強化に取り組んで行く。

戦略5-1：推進体制づくり・継続・発展

まず、持続可能な推進体制の構築には、情報や思いの共有が不可欠だと私たちは考える。

地域内の情報を収集し共有する、そして、それを地域外へ情報発信する為に、フェイスブックなどのSNS（ソーシャルネットワークサービス）を活用する。個人レベルではもちろんの事、各組織のフェイスブックが一同に集まる場所を構築したいと考えている。

また、地域内情報共有の為に、雲仙の今を伝える雲仙ingを3ヵ月に1回、年に4回発行し、私たちの活動報告や、地域の旬な情報や面白トピックスなどをここで紹介する。そうすることで、多くの人を具体的活動に巻き込み、参加いただきながら、オール雲仙での取り組みを目指す。

2年目からは、SNSも雲仙ingに関しても掲載範囲を広げ島原半島の情報も共有できるようなツールに発展させたいと考えている。

更には、情報を共有することで知恵やアイデアも共有することができ、継続的に新しいアイデアをアクションプランとして実行できる。実行後は達成状況や成果評価のためのアンケート調査の実施、年に1～2回の活動報告会などを通して、プランをブラッシュアップしていくと同時に、評価や支援をいただき継続活動につなげていきたいと考えている。

そういった活動を積み重ねて行き、長期的には5年に1度の雲仙プラン100行動計画の見直しを行い、持続可能な推進体制の構築を目指す。

○戦略5-2 雲仙人の育成（人材育成）（総務部会 副部長 市来勇人）

雲仙人の育成は、「おもてなし力の向上」「雲仙に誇りをもち、訪れる人に伝えられる観光地づくり」「研修・勉強会の開催」を柱に進めていく。

今年4月に、雲仙旅館ホテル組合様の協力を得て、雲仙のホテル・旅館の新入社員向けの研修をさせていただいた。そこでは、新入社員に雲仙の歴史や自然などの沢山の魅力を知ってもらい、雲仙を楽しんで、好きになってもらえるように研修を行った。

こういった研修をはじめ、必要とされる講座・研修会を行っていく。例えば、先ほども上がったSNS活用講座や、これからの国際型観光地に向けて外国語講座など働く人のスキルを上げる直接的な勉強会や、住民や従業員向けの登山会・霧氷ツアーなど、雲仙の魅力を、もっと地元の人が知ることの出来る環境を整えていきたいと考えている。

こういった研修・勉強会などで得た技術・知識をさらに磨きあげるため、地獄・温泉・自然・語学など様々な分野に分けて知識・技術の段階に分けた検定などを新たに設け、住民1000人が様々な得意分野の仙人になれる様、互いに高め合い、雲仙でしかあじわえない、おもてなし・料理などのブランドを作り上げていきたいと考えている。

そして、子供から大人まで雲仙に住む全ての人が、「まち」を案内できる笑顔あふれる地域となり、雲仙に住む人も、働く人も、雲仙へ訪れる人に魅力を伝えられる笑顔あふれる“つながる”「まち」になれるようにしていきたいと考えている。

戦略5-3 雲仙地域のマーケティングとブランディング強化と戦略的情報発信

情報戦略の強化として、半島が一体となったマーケティング、ブランディング、戦略的情報発信に積極的に協力しながら、その情報を雲仙地域にもフィードバックし、そのなかで、雲仙地域にこそ担える役割を認識し、実行することで、雲仙プラン100の取り組みを、より効果的なものとし、見直しを的確に行うためにも、マーケティングやブランディングの結果を常に分析しながら進め、近い将来には、半島から飛び出た広域連携もとれるような規模に拡大して行く事を目標とする。

情報戦略、特にブランディング戦略については、雲仙プラン100の取り組みの根幹を成すことから、理事会や他部会とも連携しながら検討を進め、雲仙の進むべき道を考えていきたい。

●まとめ（副会長 福田努、林田政晋）

雲仙プラン100地域づくり委員会の4つの部会から出された「まず、着手する10個の行動計画」を、ここで再度簡潔にまとめてご報告したい。

- ① 雲仙の方にも半島をもっと知ってもらい、半島の方たちも雲仙をもっと知ってもらう為に島原半島あるもの探しの実施。（相互理解）
- ② 島原半島への周遊・滞在促進と地産池消促進の為に島原半島フェノロジーカレンダーの作成・活用。
- ③ 昔の開かれた景色を再現する為のアクセス道路の景観改善。
- ④ 自然エネルギーである雲仙独自の爛付け機能を一元化し地獄景観改善への取り組み。
- ⑤ 今年実証実験を行った仁田峠パーク&ライドを本格実施へ向けて取り組み。

- ⑥ 草原景観を復活する為の牧羊による放牧。
- ⑦ 多くの山に囲まれた地形を利用した山のアクティビティーの充実。
- ⑧ 雲仙の旅館、商店、飲食店とのコラボレーションによるまち歩きの促進。
- ⑨ SNS（フェイスブックなど）や広報誌『雲仙ing』を活用した情報共有と情報発信の強化。
- ⑩ 雲仙や島原半島の歴史、文化、などを理解し、人に伝えられる知識を持った雲仙人の育成。

これらの行動計画をはじめとした雲仙プラン100を、地域住民の方、雲仙で働いている方、そして自治体を含めた関係機関などのご協力を頂き、国立公園指定100周年へ向けて一つずつ着実に実施して参りたい。

私自身小学生の子を持つ親として、23年後は今の子供たちが雲仙に戻ってきたくような、雲仙で仕事したくような、雲仙で家族を持ちたくような、そういう雲仙であって欲しい。また、世界の国々の方が、雲仙や半島のあちらこちらで楽しくまち歩きを楽しんでいる雲仙であって欲しいと、毎日そのことを糧にしながら宮崎会長他a11雲仙でこの会を盛り上げて行ければと思う。

終わりに、どうぞ、一人でも多くの皆様に本日この会場で会員になって頂き、そして応援して頂たくよう心からお願いをさせてまとめの報告とする。

◇雲仙プラン100に寄せて

「雲仙プラン100」の発表を受け、まずは地元自治体を代表して、長崎県島原振興局長、雲仙市長より「雲仙プラン100に寄せて」メッセージをいただいた。

【長崎県島原振興局長 江口道信氏（管理部長 西貴史氏代読）】

雲仙プラン100は、23年後の国立公園指定100周年を見据え、雲仙地域の再生と国立公園再生の為、将来ビジョンと具体的な行動計画を取りまとめたものである。本プランの検討にあたっては、これからの時代を担う若者達がワーキングメンバーとして参加し、一年以上にわたって議論を重ね、専門家の方々の意見を聞きながら、作成されたと伺っている。特に月2回のワーキングを始め、事務局会議などは、仕事が終わった後に集まり、夜遅くまで議論されていたとも聞いている。しかし皆さんもご存じのとおり、計画は作る事が目的ではなく、これからが始まりであり、むしろこれからが大変であると思う。雲仙プラン100の基本戦略に沿って、社会の変化やニーズを的確に捉え、よりよい方向に取り組みを続けていってほしいと思う。雲仙の方々がこれまで築き上げた雲仙地域のイメージやブランドを受け継ぎ、若者達が新しい雲仙地域の魅力を発信し、雲仙がひいては島原半島が、益々元気になっていくことを願っています。

雲仙プラン100の基本理念に、「つながる」というキーワードがある。プラン作成にあたっては、雲仙地域の関係者だけでなく、島原半島の各種の団体や住民も参加いただいております。これを機に「あるもの探し」や各地のイベントに相互に参加するなど、雲仙地域と島原半島各地の連携を深めていって頂きたいと思う。

今後は、島原半島観光連盟が半島内の各観光協会等と一体となって推進する、島原半島がまだプロジェクトや、来年1月から営業運航を開始する予定の上海航路などとも連携し、国内外からも島原半島を目指して人々が集まる事を期待している。

終わりに、計画作成にご尽力をいただいた環境省九州地方環境事務所はじめ、委員の方々、ワーキンググループの方々に敬意を表するとともに、関係者の皆さま一層のご活躍を祈念し、お祝いのメッセージとさせていただきます。

【雲仙市長 奥村慎太郎氏】

雲仙プラン100の発表を心からお祝い申し上げます。また、新しく地域づくり委員会の会長に就任した宮崎氏から、地域の強みと課題という発表があった。強みに関しては、どんどんセールスをしていただきたいと思うし、課題については、これから実行しながらその課題を克服する努力を続けていただきたい。

先程から、雲仙プラン100を作られた若者たちと雲仙プラン50を作られた親世代の皆さまを横目で見ながら、やはり時代は変わり、新しい人たちが育ってきているんだなと思っている。この雲仙が、そして雲仙プラン50の方々からも、23年後にまた元気にご意見を賜れることを心から願っている。

雲仙プラン100の皆さん、頑張ってください！



以下、両市長については、事前にお送りいただいたメッセージを、会場で司会より紹介させていただきます。

【島原市長 横田修一郎氏】

本日は、「雲仙プラン100発表シンポジウム」の開催を心からお祝い申し上げます。

この「雲仙プラン100」は、23年後に国立公園指定100周年を迎える雲仙天草国立公園雲仙地域のあり方を示した中長期の地域再生行動計画であり、雲仙地域に何が出来るかということ策定した計画であります。

現在、島原半島3市におきましても、島原半島観光連盟及び、島原半島ジオパーク推進協議会を組織し、島原半島が一体となり観光振興や島原半島ジオパークの推進に取り組んでいるところでございます。特に、島原半島ジオパークにつきましては、平成24年5月12日から15日にかけて、第五回ジオパーク国際ユネスコ会議がこの島原半島で開催される予定であり、現在、開催に向けた準備が着々と進んでいるところでございます。

この国際会議には、世界30カ国から約300名、国内から約300名、そして、このほかにも地元関係者の参加を含め延3,600名の皆様が参加される見込みであります。この国際会議を通じて多くの皆様にこの島原半島の魅力をお伝えできているところでございまして、本会議が成功いたしますように島原半島が一体となり、日本ジオパークネットワーク、国、県、関係機関と連携しながら、大会を盛り上げて参りたいと存じます。

また、島原半島観光連盟が実施主体で行う「島原半島『GAMADASU』プロジェクト」が、長崎県の「がんばらんば長崎」地域づくり支援事業に採択されました。

このプロジェクトは、島原半島が有する自然と火山の恵みを最大限活用しながら、観光地としての競争力を高めるために、関係者が総力を結集して観光客の誘致と特産品の販路拡大に取り組むものでありまして、半島全体の活性化に大いに寄与するものと存じます。

この「雲仙プラン100」におかれましても、5つの基本戦略のもとに様々な将来ビジョンが掲げられており、雲仙地域はもとより、島原半島全体の地域振興に多いに貢献いただけるものと大きな期待をいたしております。

そして、本事業の推進にあたり、格別のご尽力をいただいております関係皆様に対し、改めまして心から敬意を表しますとともに、本日もご列席の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念申し上げ、応援メッセージといたします。

【南島原市長 藤原米幸氏】

本日、雲仙プラン100発表シンポジウムが盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。この「雲仙プラン100」の検討にあたっては、専門家や地域関係者からなる策定委員会、島原半島の若手有志からなるワーキンググループ等を設置し、活発な議論を繰り返され、まとめられたプランであると伺っております。

現在、雲仙天草国立公園が位置するこの島原半島では、さまざまな事業を半島3市が連携して取り組みを進めております。例えば、島原半島世界ジオパークや、先日、長崎県の「がんばらんば長崎」地域づくり支援事業に採択された島原半島観光連盟が実施主体で行う「島原半島『GAMADASU』プロジェクト」など、いずれも国立公園が位置する島原半島の自然、歴史、温泉、食などの火山の恵みを最大限活用しながら、観光地として競争力を高めるための取り組みであります。また、南島原市では、来年、口之津港開港450周年の節目の年となります。南蛮船来航からの歴史が島原半島に大きな影響を与えたことは言うまでもありません。この節目の年に、記念事業を開催することにしており、島原半島全体で連携を取りながら事業の推進を図ってまいります。

私たちの先祖が守り育ててきたこの島原半島の美しい自然環境や歴史、文化を、現代に生きる私たちが更に発展させ、子や孫、そして未来へ伝えていくという重要な役割を担っております。この「雲仙プラン100」の基本理念「つながる」を合言葉に、島原半島の地域振興に共に取り組んでまいります。

結びに、これまで雲仙プラン100を策定するにあたり、ご尽力をいただいた関係皆様に対し、心から敬意を表しますとともに、本日よりご列席の、皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、「雲仙プラン100」の応援メッセージといたします。

つづいて、今回の雲仙プラン100の策定に専門家の立場として参画をいただいた坂元委員、大渡委員、瀬田委員より応援メッセージをいただいた。

【財団法人阿蘇地域振興デザインセンター事務局長 坂元英俊氏】

雲仙プラン100の完成おめでとうございます。これから、策定されたプランを徐々に完成させていく、そんなスタートを本日切られたものだと思っている。

57号線から山沿いをずっと上がっていくと、ゴルフ場を越えた所からパアッと視界が広がり、雲仙という空間が目の前に飛び込んでくる。本当にまさに、山にある、地獄というより温かみのある空間の桃源郷だと感じている。こうした地域の中で、このプランが作成され、半島の中で大きく成長していくのだと思う。



阿蘇地域も一生懸命頑張りながら、「滞在できる阿蘇」を目指しているが、こういう形で雲仙、島原半島と一体となり取り組んでいく姿は、今後の九州という一つの島の中で、大きく連携をとりながら、横軸の繋がり大きな連携に進んでいくものと考えている。今から23年後、私は80歳になるが、その時の雲仙が非常に楽しみである。そんなプラン100に寄せて、メッセージを読ませていただく。

その昔、雲の上の一面に噴き出す温泉があって、そこに人が住み集落が生まれた。いつしかその集落は雲仙と呼ばれ、人々の暮らしの中、国立公園となり、数々の旅館とともに日本有数の温泉観光地へと変貌していった。そして今、新たな雲仙地域が生まれつつある。地域づくりを進めていきつつ、行動の中心は地域に住む一人一人であると思う。行動計画は、人と人との協働の取組であるが、大切なのは、この計画に携わる人、旅館、ホテル、商店等がお客様に選ばれる雲仙地域になることであると思っている。こだわりというものをしっかり持って、その繋がりを活かしていただければと思う。そして、お客様に選ばれる雲仙地域になることが経済的にも持続可能な地域の再生だと思う。お客様は温泉に恵まれた気持ちの良い地域で、気持ちの良いもてなしを受け、優雅でゆったりとした滞在期間を過ごしたいと思われている。このプランはそのための雲仙地域を象徴するプランでもある。雲仙プランを作成する過程の中で育まれた、地域の若い人たちの仲間との信頼関係、希望、夢を共有しながら、この計画に加わる皆さんが個人としての変化を起こしていくことも必要と思う。そして、プランの進行に合わせて、自分の旅館やホテル、店の変化を実感していけることが、一つのプランなのかもしれない。プランを支える皆さんがお互いに関心を持ち、声を掛け合い、この基本的な姿勢に磨きをかけていくという。そして、自分達の地域の良さをどれだけ自慢できるか、その自慢が木霊して人が集まっていくと考えられる。このことが誇りにもなっていくのではないか。一日一個でも、地道な活動の積み重ねが、3日後、3ヶ月後、半年後、1年後、そして3年後、25年後の雲仙地域をつくっていくのだと考えられる。

語り合いの笑顔、接客の笑顔、そして自分への笑顔、いつも笑顔でいられる。雲仙プラン100のテーマは「つながり」である。笑顔が繋がる、これは変化を実感しているからこそその笑

顔の積み重ねかもしれない。雲仙プラン100の策定に参加させていただき、ありがとうございました。

【有限会社大渡企画・設計 代表取締役 大渡剛弘氏】



雲仙プラン100作成の皆さまお疲れ様でした。新組織のメンバーは、今からが本番であり、いかに実践していくか、これは各部会のメンバーが良く分かっていると思うが、私の方からはいかに実践していくかと観点からお話したいと思う。一番お話したいのは古湯のまちづくり、割とトントンとまちづくりが運んでいったため、その秘訣を紹介して、地域づくり委員の方々がこの雲仙プラン100を進めていくにあたり参考にして頂きたい。古湯のまちづくりは、平成17年にとりかかり3年目にファサードの事業を行い、4年目には7棟の家屋が改修された。こういうことで、目に見える形で早く成果が出せたということが、すごく良かった。それまで雲仙に関する計画書などが沢山つくられた訳だが、計画ばかりで物事が進んでいかないということで多少気分が下がっていたが、4年目に物が出来たということで進みだし、最終的には3年で38棟という成果がでた。雲仙プラン100も、早く成果を出すのが必要ではないかと思う。当時の写真をお見せするが、街並みが随分良くなった。商店街の真ん中程に入っていくと、旅館だった「かせや」がベーカリー、カフェになるなど随分良くなった。20年21年度には、今村さんの所のカフェ、おもちゃ博物館などの一棟がずらっと変わった。最終の22年度には、その後も改修が進み、まだ途上な箇所もあるが、古いお家からまるで新築の様になるなど、良い街並みに変わっていった。この効果としては、売上が昨年度と今年度比で3倍以上伸びていたりという結果がある。景気が良くならない中で、このように売れ上げが伸びたのは非常に良かったと地域の皆さんも喜んでいた。

I. 古湯地区のまちづくり
進捗の秘訣

- ・とりかかって3年目にファサード事業開始
- ・4年目に7棟のファサード改修完了

1. 目に見える成果を早く出す。
・事業に弾みが付く。

2. コンサルに頼らないまちづくり

- ・地区住民全員が、自分のこととしてまちづくりに取り組む。

↓

- ・自分たちつくった街だから、持続性の高い街になる。

秘訣その2は、コンサルに頼らないこと。雲仙プラン100の第一回目の委員会の中で、某会長がおっしゃった名言だと思うが、「コンサルに頼らないまちづくりで我々は成功したんだ」とおっしゃっていた。私もずっとコンサルとして関わっていたため「何を言うか」と思ったが、本当の芯の所でコンサルに頼りすぎない、コンサルにまかせっきりにしないということである。自分の事として考えることが重要で、地域の人たちが自分のまちの事だから、自分のものとしてまちづくりを考え取り組んでいく必要がある。そうやっていけば、組み上げられた案について、自分で責任を取るという姿勢が生じて、持続可能なまちになっていくということではないかと、今それはよく強く感じている。今も、古湯のまちづくりは進行形で、月1

度くらいは平均でグループディスカッションを続けている。その時に注意しなければならない事は、どんな人でも自分の意見を持っているので、それを聞き出して、グループの中でその意見を消さないように汲み上げていって、最終案としてそれらを組み立てるといことにしようとしている。自分達が作ったまちだから、自分達で維持していこうという姿勢がその中から生まれてくるのではないかと考えている。こうやって、平成 17 年、18 年、19 年と議論を重ね、出た意見について専門の立場から色々なプランを提示しながら、最終的には和風のレトロな街をテーマにまちを作っていこうという事になった。現在着工中の箇所が 24 年度の末に完成するため、25 年の春には素晴らしい街が、古湯の国道沿いの裏側に生まれてくるのではないかと、すごくワクワクしている。また、ちょうど写真の



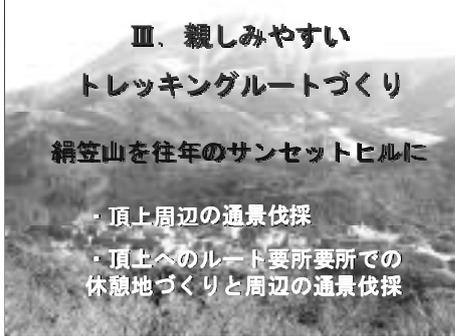
手前の所に公園が出来るが、斜面の公園になっている。元々の市の懸案は、2 段の平面だったが、地元で色々話し合いをしながら、2 段の平面の雛壇になっているよりは、斜面の芝の方が色々面白いよねという形で再生案が固まり、今これに向かって市が工事を進めている。植栽計画についても、先日打ち合わせで地元協議会を開き、ヤマザクラとドウダンツツジ、これをメインに植栽計画を作りあげて、その場でわいわいやりながら作りあげて市の方に案を届けた所である。



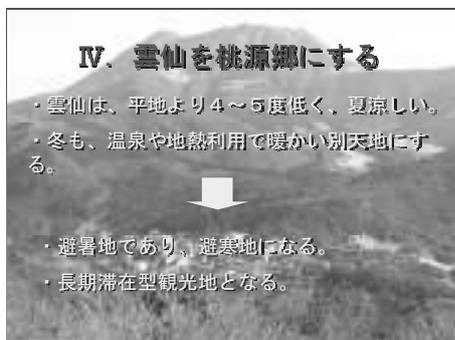
大きな 2 番目。雲仙のまちでどうしても遺言として言っておきたいのは、もう一本のライフラインを作りたいということ。峠越えして、私達のいる会館の前を通って右側に抜けていくというもう一つのバイパスを作りたい。国道 57 号だけだと、何年か前に火事があった際、沢山の車が立ち往生して迂回するのが大変だったと聞いた。一本だけに頼るのは大変危険であり、やはりもう一本欲しい。下水道の本管もあそこ一本であるため、そういう意味

からしても、そこに何かあった場合、町中がブラックアウトしてしまうのは良くないのではないか。ということからも、やはりもう一本作っておくという事が必要ではないか。

絹笠山の上から温泉街を見下ろすと、普賢岳やゴルフ場が見える。非常に良い所である。上から見下ろして初めて、赤い屋根が揃ってまるでヨーロッパの街みたいだなと思えるが、この空間を観光客にも是非楽しんでいただきたいと思うのは私だけでないと思う。ところが今、絹笠山の上にはなかなか観光客が足を運ばない。なぜかという、上に行くまで 30~40 分かかかるのだが、行く道が楽しくない。景色は楽しめないし、頂上に登って展望台に登らないとこれが見えない。後ろを見ると橋湾が綺麗に見え、非常に良い所である。そのため、もう少し行って楽しい、登るのも楽しい、途中で何か所か休憩所があり、一番上まで行くと草原があるみたいな、そういう山にして欲しい。楽しいトレッキングルートのを是非実現して欲しい。な



かなか林野庁さんが厳しい事をおっしゃっているようだが、これはお百度踏んででも実現する価値があるのではないかと私は切にそう思う。このサンセットヒル、昔はヨーロッパの方々が来て、ヨーロッパの景色だなと草原の気分を楽しんだ、夕日を楽しんだという事だが、それをもう一度取り戻したい、取り戻して欲しいということである。頂上の周辺の通景伐採、頂上へのルートの休憩所での通景伐採というものを是非お願いしたい。



それからもう1点、雲仙地域は標高700mの盆地で非常に手ごろな大きさであり、皆が一丸となってやれば出来る。そんなに壮大な広さでないのでは是非快適な街にして欲しい。今でも快適だが、もっと快適にできるはず。夏は涼しく冬は暖かいし、先程からおっしゃっている爛付け一元化が実現すると、お湯が色々な所で利用でき暖かい冬が過ごせる。そうすることによって、長期滞在したくなり、長期滞在したらここに住んでしまおうかとなるのではないか。

そうなれば住みたくなる街N01の雲仙地域になれる。23年後、プラン100の目標年次だが、沢山の人や高齢者が、ここに移住したくなるそういう街になって欲しいというのが私の願いである。それに向かって、地域づくり委員会の方にはぜひ頑張ってもらいたい。

【元長崎県自然保護課長、元環境省長官官房審議官、元財団法人国立公園協会理事長 瀬田信哉氏】



街並みの話、街並みを改善していく事も含めて、先程の大渡さんの話は的確である。ただそうしていく時に、バイパスとおっしゃったが、「もう一つの道」といった方がいいかもしれない。国道が変わってこゆう古湯の所が、人が車に脅かされないで歩ける、そういう通りになる事を現実のものにすれば、雲仙という事だけではダメで、島原半島全体の問題として考えなければならない。その方法については、雲仙プラン100に対するメッセージということで示しているのでご覧いただきたい。

NHKのBSで火野正平さんが自転車で九州を周っている番組があるが、その中で手紙があって紹介しており、熊本の人が、雲仙に落ちる夕日、あるいは雲仙をシルエットにした風景が、匂いが忘れられないと書いてあり、そこに訪ねていくという事をやっていた。ここに2つの絵がある。雲仙と島原半島の風景であるが、これらは雲仙を眺めているもので、雲仙は、行くだけではない、そこにある周りの風景というものを見るものだということでこの浮世絵が描かれている。



1981年5月、鯨岡環境庁長官が雲仙に来られて、いわゆる第一世代の方から、色々な陳情や意見について皆さんからの話を聞いた。それがちょうど30年前。それから30年、今、若い世代いわゆる今回のワーキンググループの方々が色々なレクチャーをし、あるいはワークショップをしている。30年前の頃から考えると、もう第三世代の世界で動いており、こういうワークショップも30年前ではまだ形になってなかった。島原半島を半島法でいうと4市、いわゆる雲仙、南島原、島原、諫早市の一部が半島法で言う半島になっている。さきほど、熊本の人が雲仙岳からの夕日がすばらしいと言っていたという話をしたが、私はこの島原半島の千々石からあがっていく所の棚田からの眺めが素晴らしいと感じている。一方の棚田はブータン、



バリのものであり、つくりの違いはあるが、何が共通しているかといえば見下ろせる、視界がひらけているということ。人がこれを作って維持するという事をしてきた。これが人と自然の関わりの産物であり、いわゆる人の側が自然に対してなすべき事はこういう事であろうと思う。それぞれの自然の姿、そこに人が関わった時にこういう風景ができてくる。ところがほとんどの人はそういったことに興味なく車で走りすぎてしま

まう。そのの所が分かっていたら、島原半島、雲仙に泊る人達に「こんな魅力がありますよ、もう一泊して里の方に下りてみませんか」という薦め方ができるのではないかな。

島原半島に32基の石橋があるが、以前案内してもらったが、案内の人と一緒に一生懸命に地図を見ながらこういう石橋を捜し歩いた。こうした案内も出来る。プラン100の発表では、白雲の池にボートを浮かべ、あるいはサイクリングをしてといった若い人達が来る雲仙があったが、これから高齢化社会が進む中で、お年寄りがどんな所を好むか、どんな所なら行って見ることができるかを考えてあげてほしい。



つぎに、「妻有」という地域の話で、十日町、津南町と合わせて面積で765k㎡、島原半島は465k㎡であるため、約1.6~7倍の広がりがあるが、妻有の人口は5万人、島原半島は14~15万人であり人口が集中している。ここで、人と自然での関係は棚田にあたり、あるいは石垣にあたりするのだが、この妻有の地域には、3年に一度「大地の芸術祭」が開催され

ており、例えばそこに行くと、駅の所などにも棚田があり、この棚田は所有者が放置してしまったものだが、NPOが「私たちが棚田を維持します」と言って引き取り、そこにロシアの



人が作品を置いて、人が関心を持つところにした。残念ながら、3月の震災でここに地割れが入り、その後夏に大雨が降るなどして潰れてしまったが、これをボランティアの人達が修復し健在している。またここは日本でも1、2の豪雪地帯であるが、そうした地域でも元気だということをお話したい。ここにあるアートだが、

この棚田に係わってきた人達の家族、おじいさん、亡くなった人、そういう人たちのモニュメントがある。この色えんぴつがいっぱいある作品は、きつと思いであり、何年か前の子供達



がここでスケッチをしている、そういう故郷があるという思い出があるのではないかと。通りかかったおばあさんが話をしてくれて、笑いながらアートを指して「私はあれです」と言う。今までは、誰も相手にしてくれないと思っていたところが、こうして住んでいる人自身が一つの生きたアートになることができている。それらは「越後妻有アートマップ」として作られている。私が素晴らしいなと思ったのは、160の作品がここにストックされていて、合わせて路線バスが全部書いてある。道路マップの裏には時刻表があって、これはつまり地域のマイカーを持たない人達、おじいさんおばあさんでも、このマップを見て十日町に買い物に出て行き、帰りは何時のバスにすると決められる。また適当に来た人は、どこに行つて何をみたいという時にこのマップの時刻表と行き先を照らし合わせていけばいい。こういう地図が島原半島に欲しいのだが、島原半島にはそういった地図はない。そこが、私が地図をもっと大切にしたい、作って欲しいと思う理由である。

雲仙が国立公園になった昭和9年、「天災は忘れた頃にやってくる」というフレーズで有名な寺田寅彦さんが「地図をながめて」というエッセイを書いている。その中で、「一枚の地図から我々が学び得られる有用な知識が、とうてい金銭に換算することが出来ないくらい貴重なものである」と言っておられる。そういう正確な地図、そこに地図に色々なメッセージを皆さんが置いていく、ジオパークの色々なジオサイトもそうでだが、それだけでなく、そこに住んでいる人達、先祖たちが自然に働きかけて作ってきた、作り替えてきた、守ったというようなものを地図の上に置いて行って欲しい。求めたいのは、必ずしも施設がなくてもちょっとしたアートがあるというもの。これは茂木のサーキットだが、そこの雑木林の中で、期間限定で1ヶ月間ぐらいの展覧会が開かれた。博物館美術館がなくても出来る、このような事も考えてはいかがかと思う。

雲仙の将来は、子供が住みたくなる島原半島かどうかにかかっている。今、GNP（国内総生産）に対して、GNH（ハピネス）という国内総幸福量ということで、日本政府も考えましようとなっている。



これはブータンだが、皆笑顔であり、他人を不審に思わない。それだけの気持ちはその人の心の持ち方かもしれないが、非常に幸福である。町中だけでなく、山の中に居た人達もこうやって私が行った時に近寄ってきてくれる。また、おじいさんはおじいさんで、桜の下でこうやってまどろんでいる。こうゆう世界を島原半島で、幸せとはGNHという幸せのモデルを島原半島、その中核である雲仙が音頭を取ってやっていただきたいと思う。あと23年あるが、拙速に動かなくても、ゆっくりと時間をとってやって下さい。若い世代、その次の世代が、こうしたことをやっていけることを期待している。



◇雲仙プラン100宣言

メッセージを受け、最後に、今後、「雲仙プラン100」の実現を通し、地域の再生と国立公園の再生を目指す「雲仙プラン100地域づくり委員会」より、「雲仙プラン100宣言」が行われた。



～「雲仙プラン100宣言」～

外国人の一大避暑地や国内有数の温泉地としての賑わいは影をひそめ、雲仙地域は今、観光客の減少、地域経済の疲弊、景観の悪化、人口の減少といった多くの問題を前に、転換期を迎えています。今こそ、力強く新たなスタートをきるため、ここに、国立公園指定100周年に向け、地域再生と国立公園再生のための具体的なビジョンと行動計画を「雲仙プラン100」としてとりまとめました。

地域の一人一人が自らのこととして考え、知恵を出し合い、汗を流し行動するという強い気持ちを忘れず、オール雲仙で取り組みます。そして、島原半島の地域、産業、立場を越えて相互理解を進め、感謝と笑顔を忘れず、互いに際だたせる関係を築き、一体となって地域を元気にしていきたいと思えます。

私たちは、自然と人、人と人、地域と地域の豊かな関係を築き、美しく元気な郷土を未来の子どもたちへ伝えます。

そして、国内外から人が訪れ、訪れた人も、住む人も、働く人も、みんなが満足度100%で元気になれる地域を目指します。

島原半島が、交流、体験、学習のメッカとなり、半島の魅力をめぐる長期滞在が楽しめ、多くの交流人口を迎え、半島の地場産業が活性化し、暮らしの魅力に溢れた美しく豊かで元気な郷土となるため、積極的にその役割を果たします。

国立公園として、島原半島全体の地域振興に活用され、また、島原半島全体で保全再生に取り組む国立公園となり、地域から求められ支えられ誇りとなりうる「協働型国立公園」を目指します。

国立公園ならではのアクティビティーが充実し、島原半島の魅力を広く紹介し、周遊・滞在へと誘い、人と地球に優しく、まちと人が輝く「忘れられない」、長期滞在型、国際観光地「雲の上のトレッキングスパリゾート」を目指します。

今日は、未来に向かって走り出すスタート地点です。目指すゴールまでには、多くの皆様のご理解とご協力が不可欠であり、ともに考え、汗を流し、支えあう仲間が必要です。たくさんの方々と、情報と思いを共有し、アイデアと意見を交換し、学び、励まし合いながら、今日より明日、明日より明後日と小さな足取りかもしれませんが、決してあきらめず、楽しみながら続けていきたいと思えます。

「つながろう 雲仙温泉！ つながろう 島原半島！つなげよう 未来へ！」



◇閉会の挨拶

最期に、雲仙を美しくする会会長より、閉会のあいさつが行われた。

【雲仙を美しくする会 会長 七條健氏】

本日、私もワクワクしながらシンポジウムに参加していた。先程、さまざまな方々からメッセージをいただき、100周年を迎える23年後、自分はどうなっているのかとちょっと不安に思ったが、本日の発表を聞いて、100周年を迎えるまで一生懸命健康であるようにと決意をしたところである。

本シンポジウムで、地域の若者が、これだけ熱意を持って雲仙の再生に邁進しようという決意を述べてくれたことを、先輩として大変嬉しく思っている。雲仙は全国に先駆けて、再生を果たしていくべき国立公園であろうかと思う。国立公園指定から75年経った今日、やはりイノベーション、国立公園としてのイノベーションが必要であると考えている。日本政府も日本のありようを色々と改革しなければ、構造をかえなければならないと言っているが、国立公園も地方分権的な発想でそれぞれの国立公園がそれぞれ特色のある国立公園をイノベーションしていく時代であると思う。雲仙がなぜ国立公園になったか、それはここに住む人間と自然が共生する国立公園であるというテーマを掲げて国立公園の第一号に指定されたと思っている。ここに住む私達が、この雲仙を、さきほど宣言したような素晴らしい夢をもって新しくイノベーションしていく事が大切であり、本当にウキウキワクワクした。さて、その為には資金が必要です。さきほど、小俣委員から「七條さんの発言は何回となく聞きましたが、今日の策定委員会での発言が一番だった」と褒めて頂いた。何が良かったかという、私が「お金がないので、今日ご出席の皆さまから300円ずつ頂いて、年末ジャンボ宝くじを買って、何億円かにし

たらどうですか、それで活動してはどうですか」と、それが一番良かったということであったので、シンポジウム、そしてこの後の大懇親会ご出席のみなさんをお願いします。300円ずつ宝くじを買うためのご寄付お願い申し上げます。

冗談はさておいて、本日のシンポジウム、熱心にご教授を賜り誠にありがとうございました。久しぶりに奥村市長もお出ましを頂き、心より感謝を申し上げます。一年半にわたり、専門委員の皆さまには献身的に、雲仙にまでお越しいただき色々アドバイスを賜りありがとうございました。そして、ワーキングの皆さん、本当に御苦労さまでした。身を挺して議論を重ね、立派なマーケティングができたが、いよいよ今日からマネジメントが始まる。立派なマネジメントをして、100周年を迎えるころには素晴らしい雲仙が形成されている事を念願し、閉会の言葉とさせていただきます。



<会場内掲示資料>

シンポジウム会場の隣に開設した「島原半島交流ブース」にて掲示した資料は以下のとおり。各資料、その詳細については、関連の章を参照のこと。

掲示資料	参照
雲仙プラン100策定委員からのメッセージ	第Ⅱ部 1.
雲仙プラン100で取り組んだ活動報告	資料6 5. ～6.
雲仙あるもの探し結果	平成21年度雲仙天草国立公園 雲仙地域再整備計画策定業務 報告書
南島原市あるもの探し結果	第Ⅲ部5. (2) 3)
求む若者のアイデア！コンテスト応募作品	第Ⅲ部5. (3)
写メコンテスト応募作品	第Ⅲ部5. (4)
島原半島・雲仙地域きっかけづくりモニターツアー	第Ⅲ部5. (5) 2)